アフタヌーン四季賞2015年冬のコンテスト四季賞受賞作品
今は昔
小野篁という人あり
学生の頃罪を犯したが
藤原良相という人の
口添えで救われた
ことがあった
その良相が病で命を落とし
冥界へ連れてゆかれると
驚いたことに
閻魔大王のかたわらに
篁の姿があった

〝この方は心のまっすぐな方
生きていれば必ずや
世のためになりましょう〟
目を覚ますと
良相は息を
吹き返していた
ある日宮中で
篁と二人になった良相は
あの不思議な出来事に
ついてたずねてみた
篁は微笑んで言った
〝かつてのご恩に
報いたまでのこと〟
〝ただし これは
誰も知らぬこと
他言無用に
願います——〟

アフタヌーン四季賞 2015年 冬のコンテスト 四季賞 受賞作品
あめつちのうた
いのちの光は、誰がため。
選考委員・藤島康介氏、激奨！「この作家さんは、もっといける！」
石井明日香
いしいあすか

吐く息の白。それは生きる者の証。
はーっ
……

すす…
ゆらり
むー
!

!!?

…比古…殿か？

比古!! おまえは また こんなところで！

……父上

篁!!
おまえも雪まみれで何をしておる!

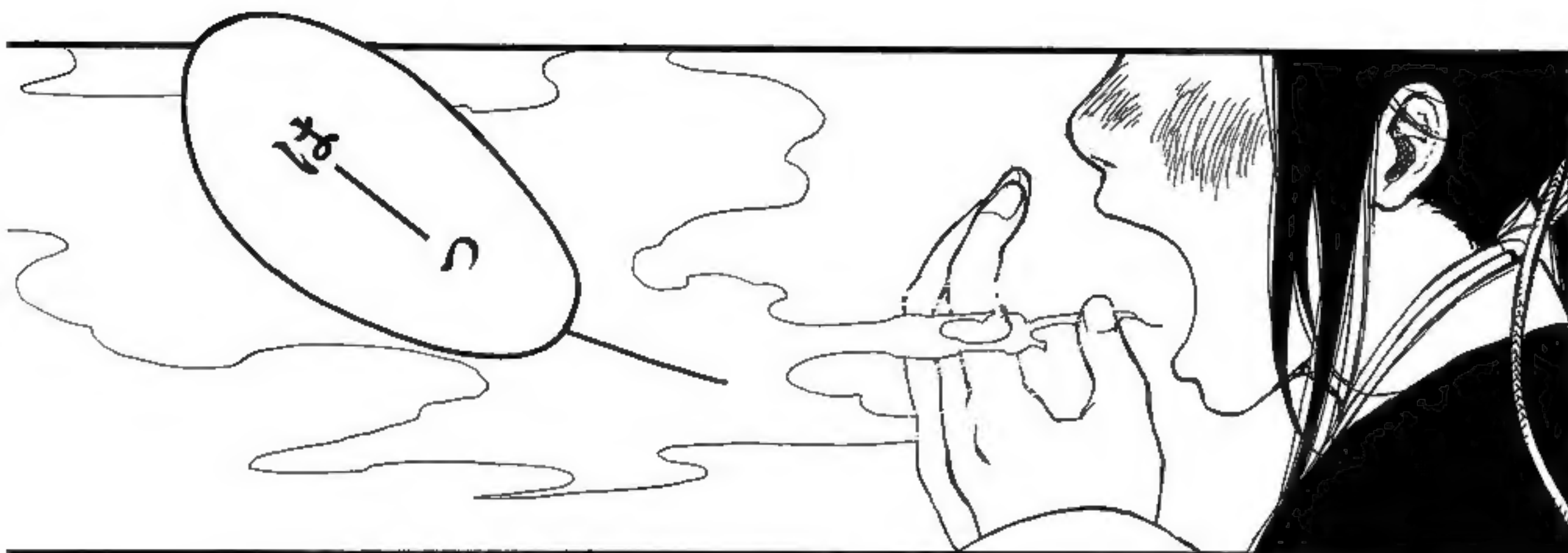
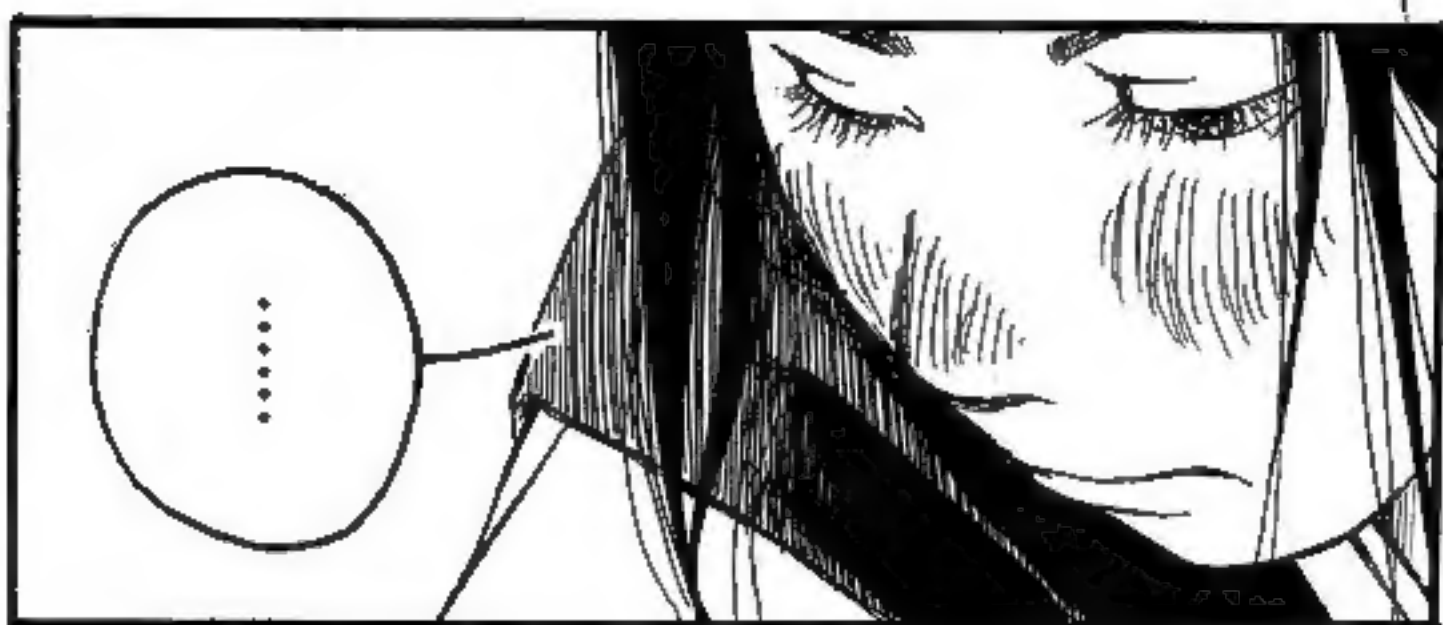
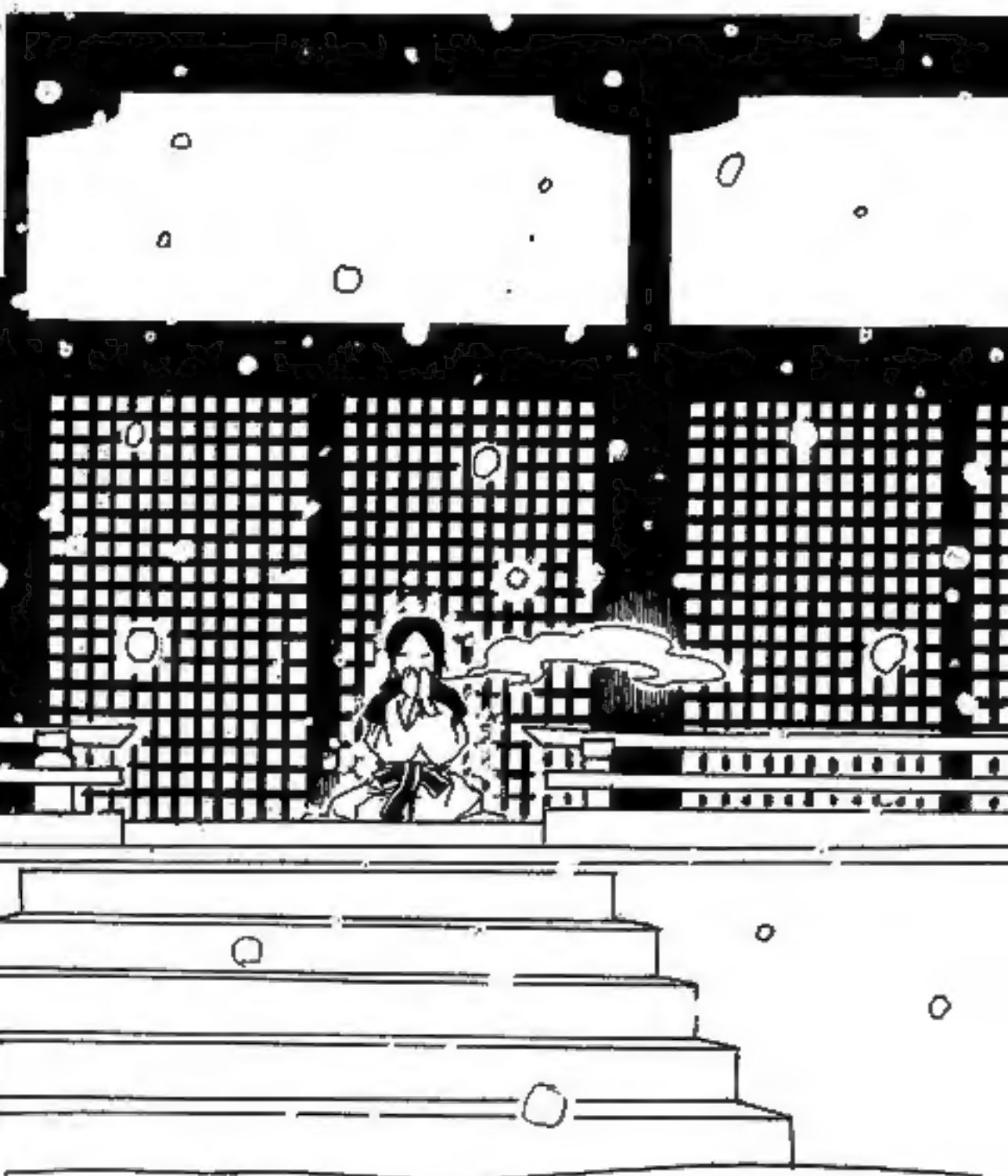
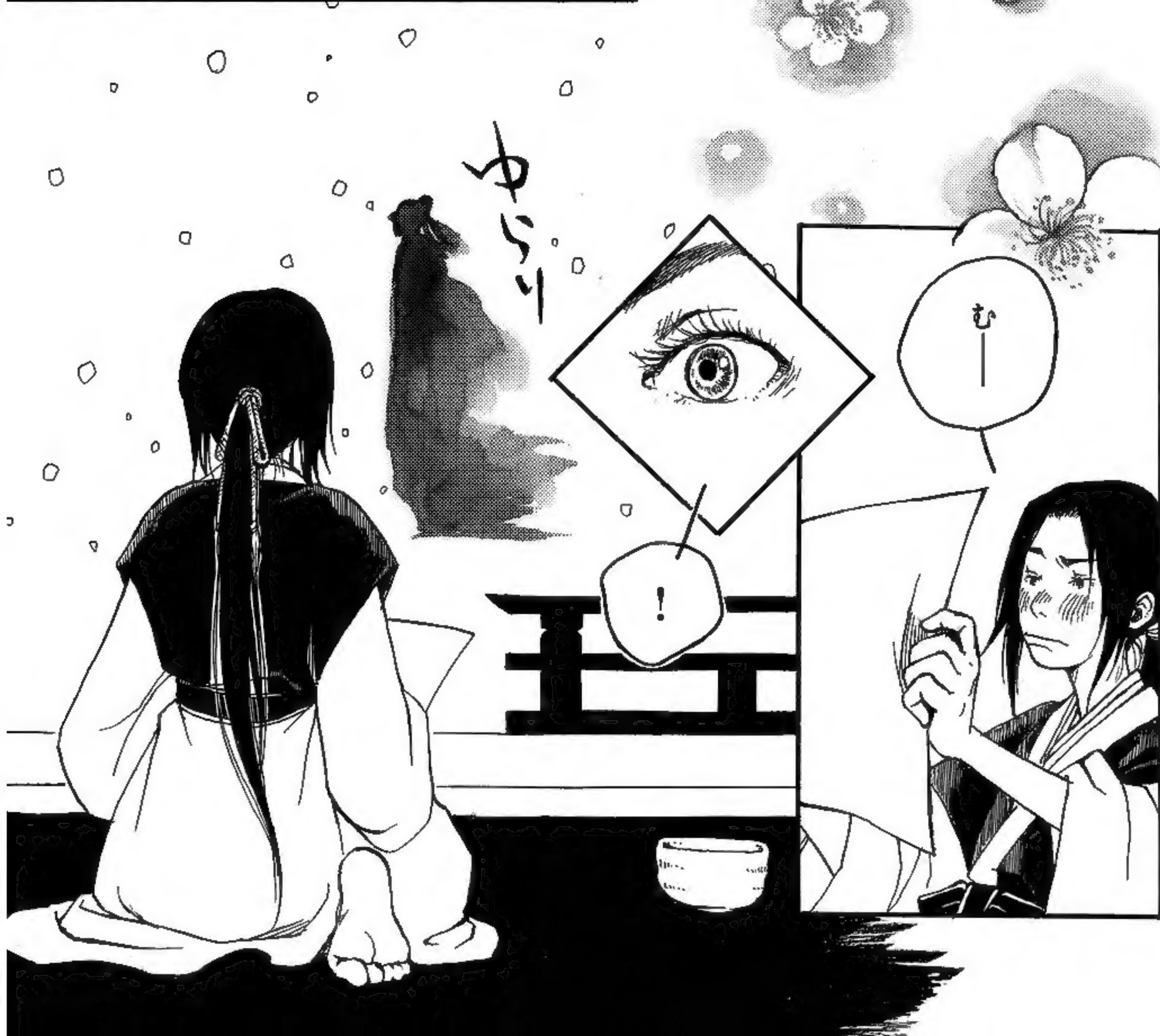
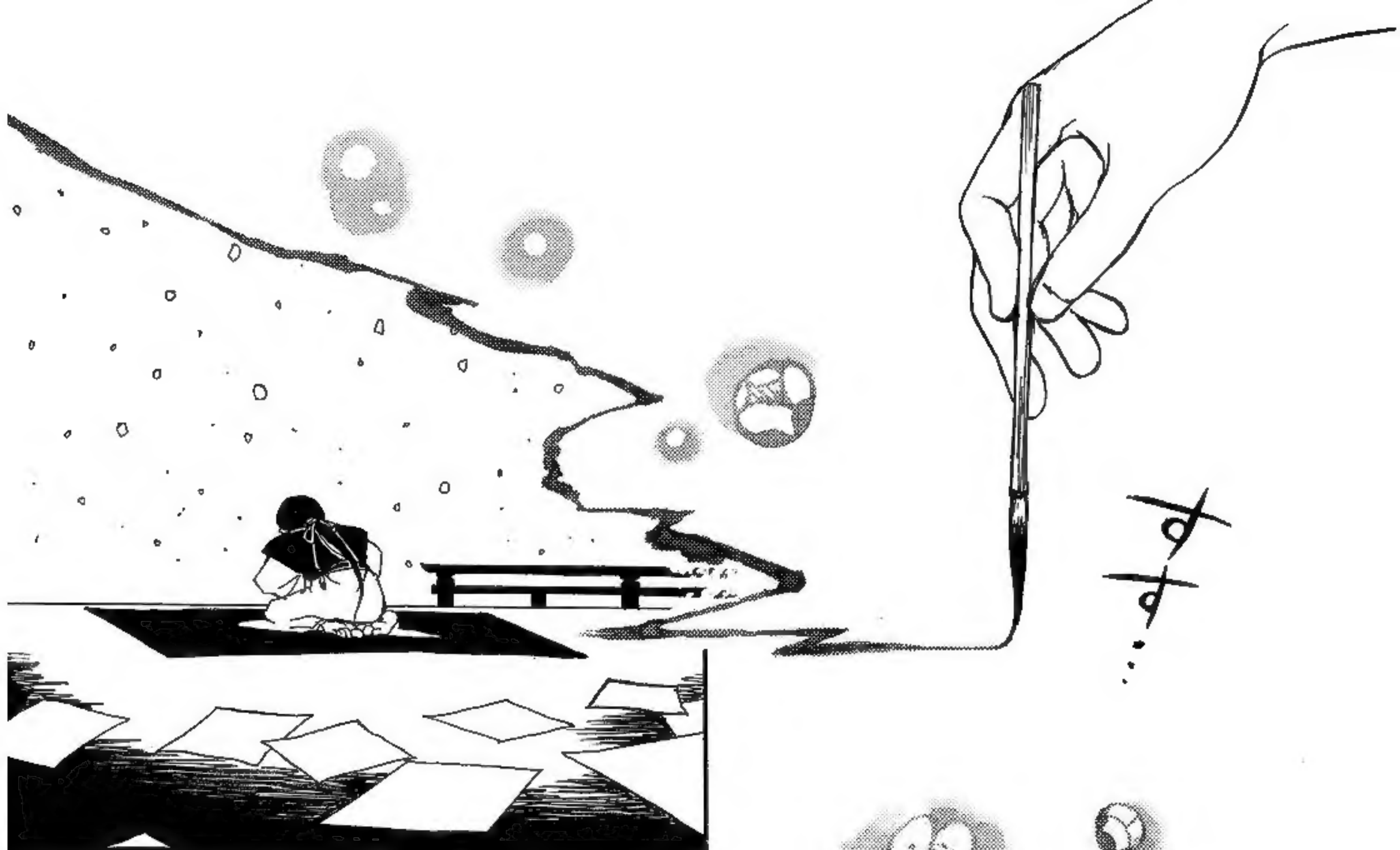
父上
この方は…

おまえの義母兄だ
漢籍の指導をと思ってな

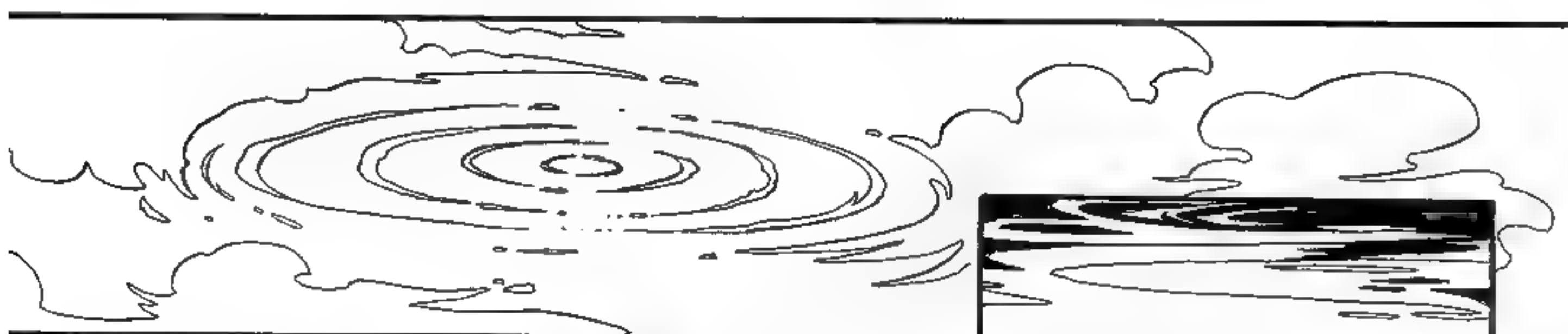
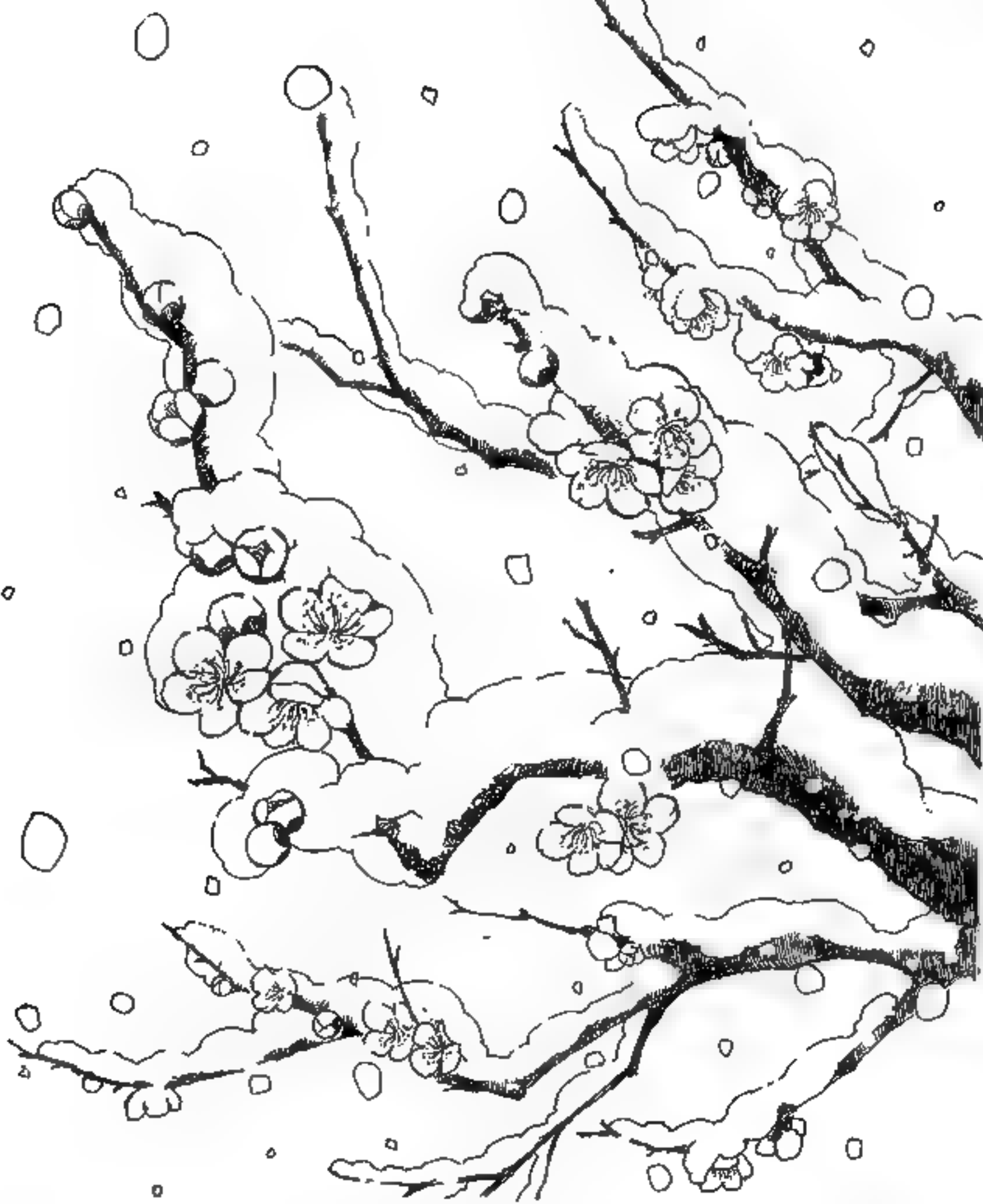
義兄上…

あ

大きい…

——〃花の色は

庭の
雪中の白梅
雪にまじりて
見えずとも
香をだに匂へ
人の知るべく〃
私も
見惚（みと）れたよ

君が
絵に託すものを
私は
ことばに託す
岑守殿の姫君は
化粧もしなければ
髪も結わずに
日がな
木や草を眺めて
いたかと思えば
寝ずに絵など
描くそうだ
なんぞ憑いて
いるのでは
ないか
ははは…
良い絵だな

……
ここにいたか
父上

年明け、冬の京都へ。小野篁が地獄へ通う際に使ったという井戸の残る、六道珍皇寺にも伺ってきました。お寺の近くには、子育て幽霊の伝説で有名な飴屋さんも。あの世とこの世が隣り合う…けれど怖いというより、目に見えないものへの敬意と親しみを感じる旅でした。

篁の漢籍の授業はどうだ

面白いです——義兄上も

篁も？

義兄上の目には
すべての命が
等しく 美しく
映るようです

朝まで書を読みふけって寝不足なのかと思っていましたが……
どこか遠くへ行ってしまわれるような――
……
篁はな――

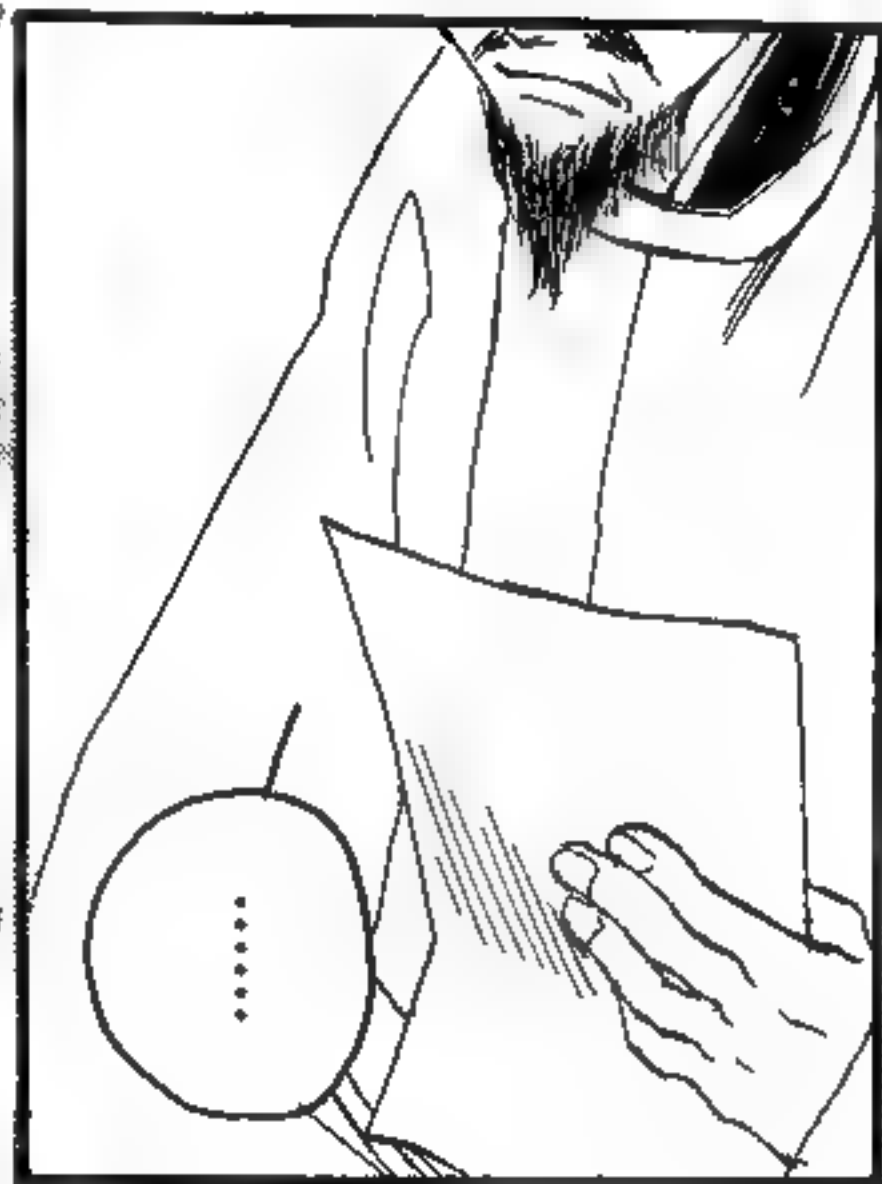
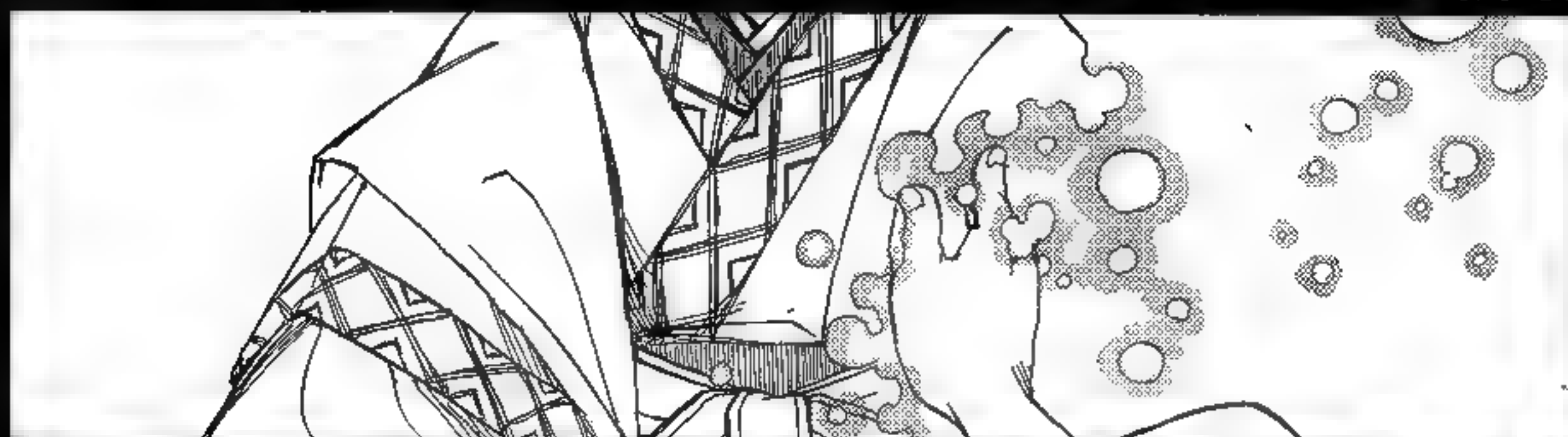
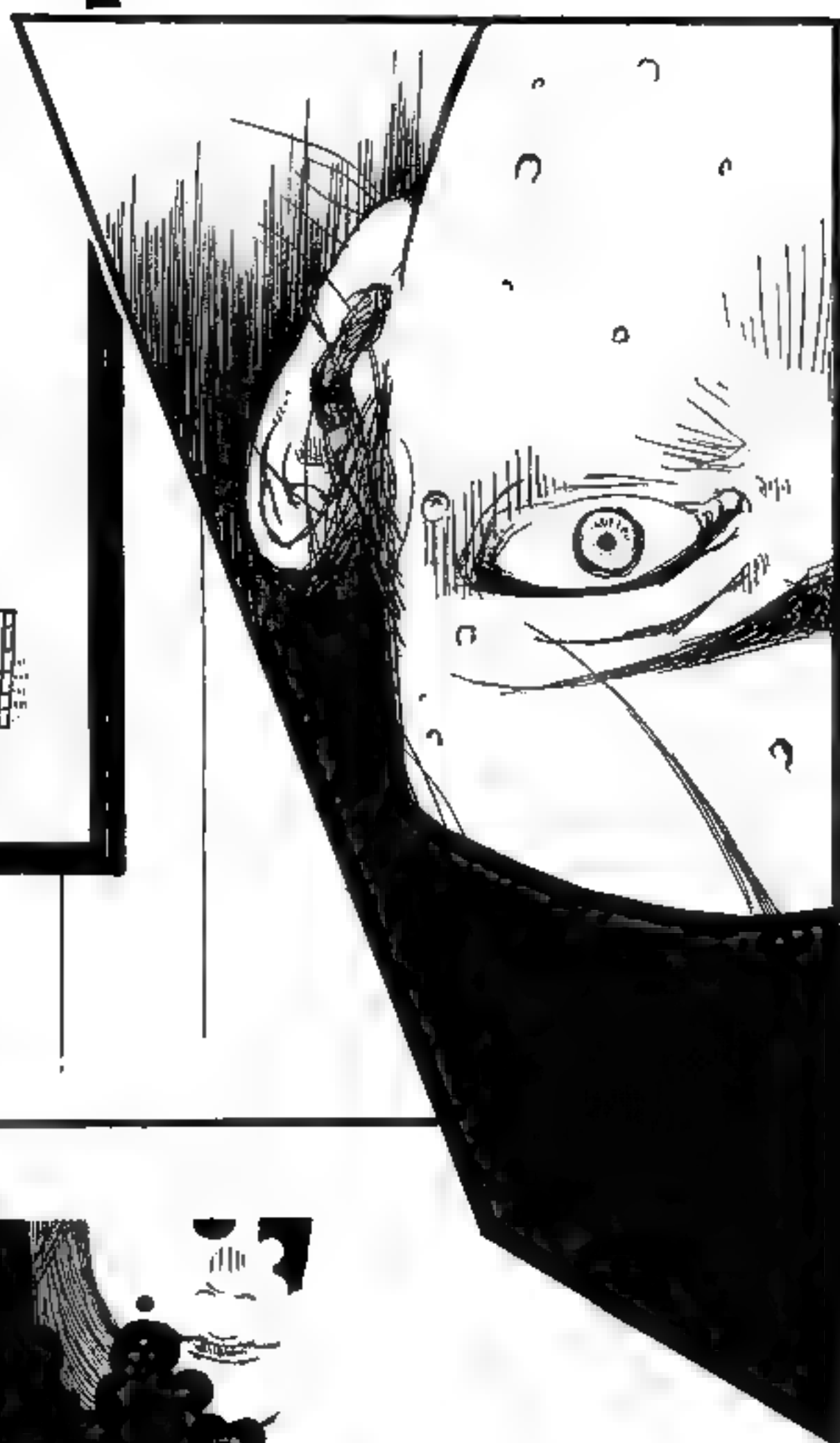
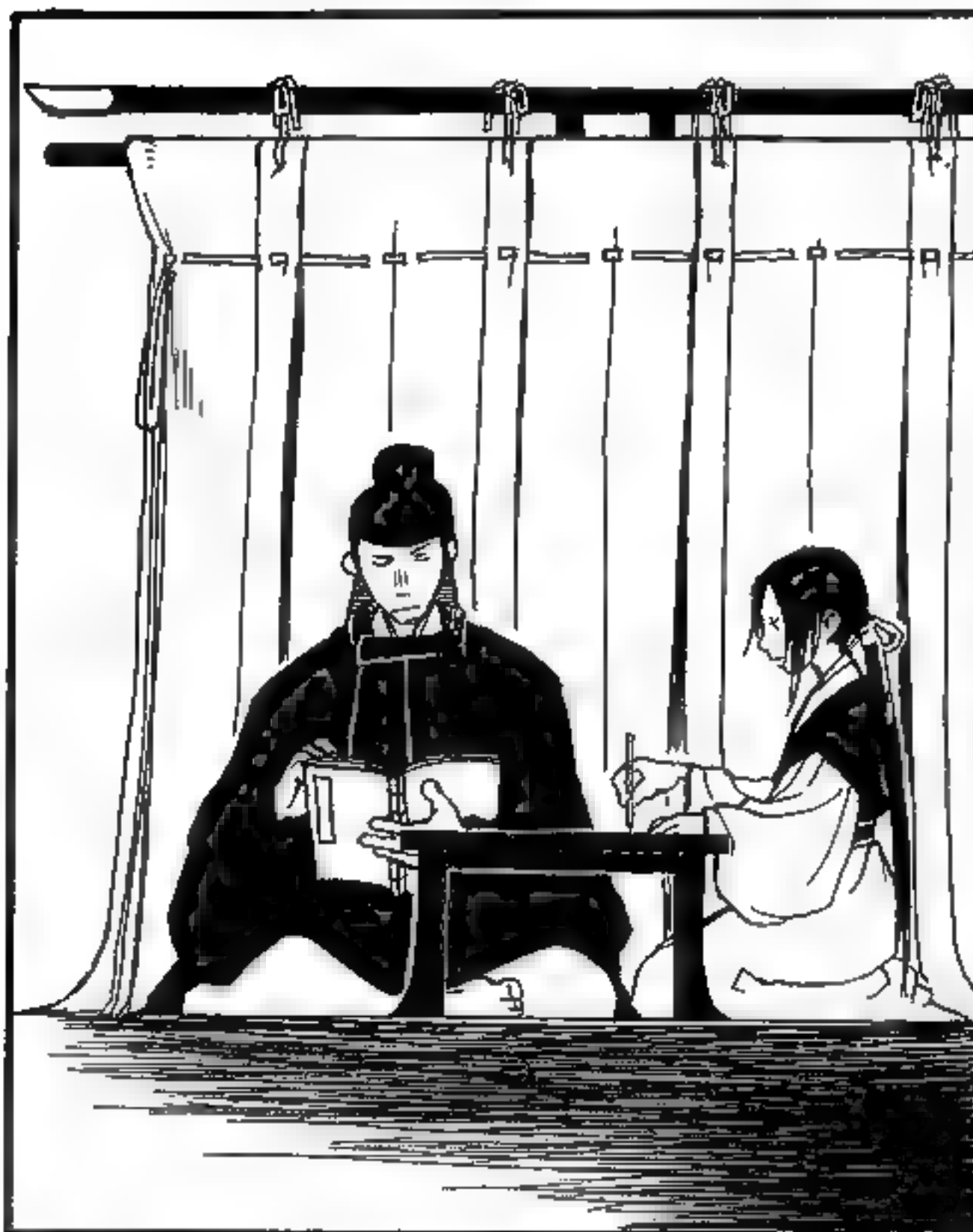
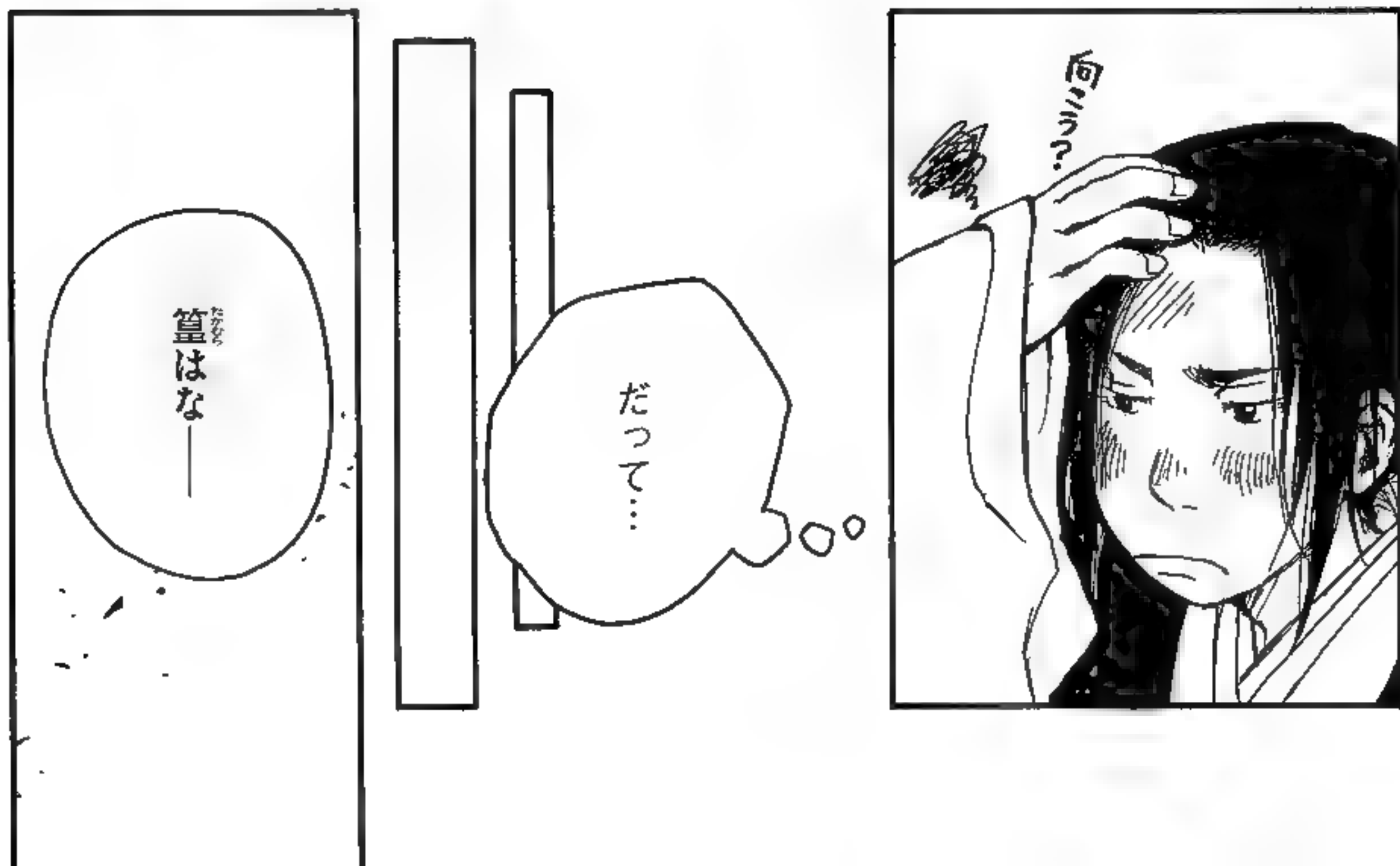
篁（たかむら）

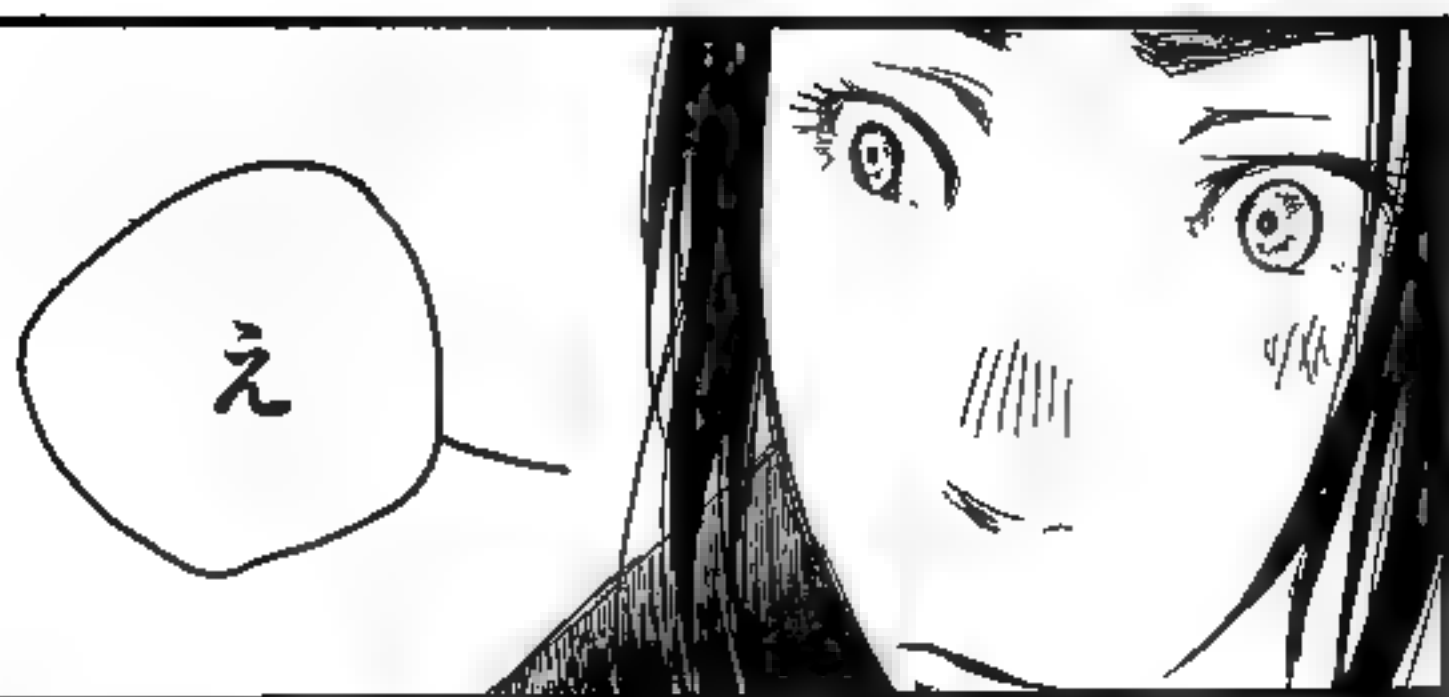
ポーッ

18

ぬななにを

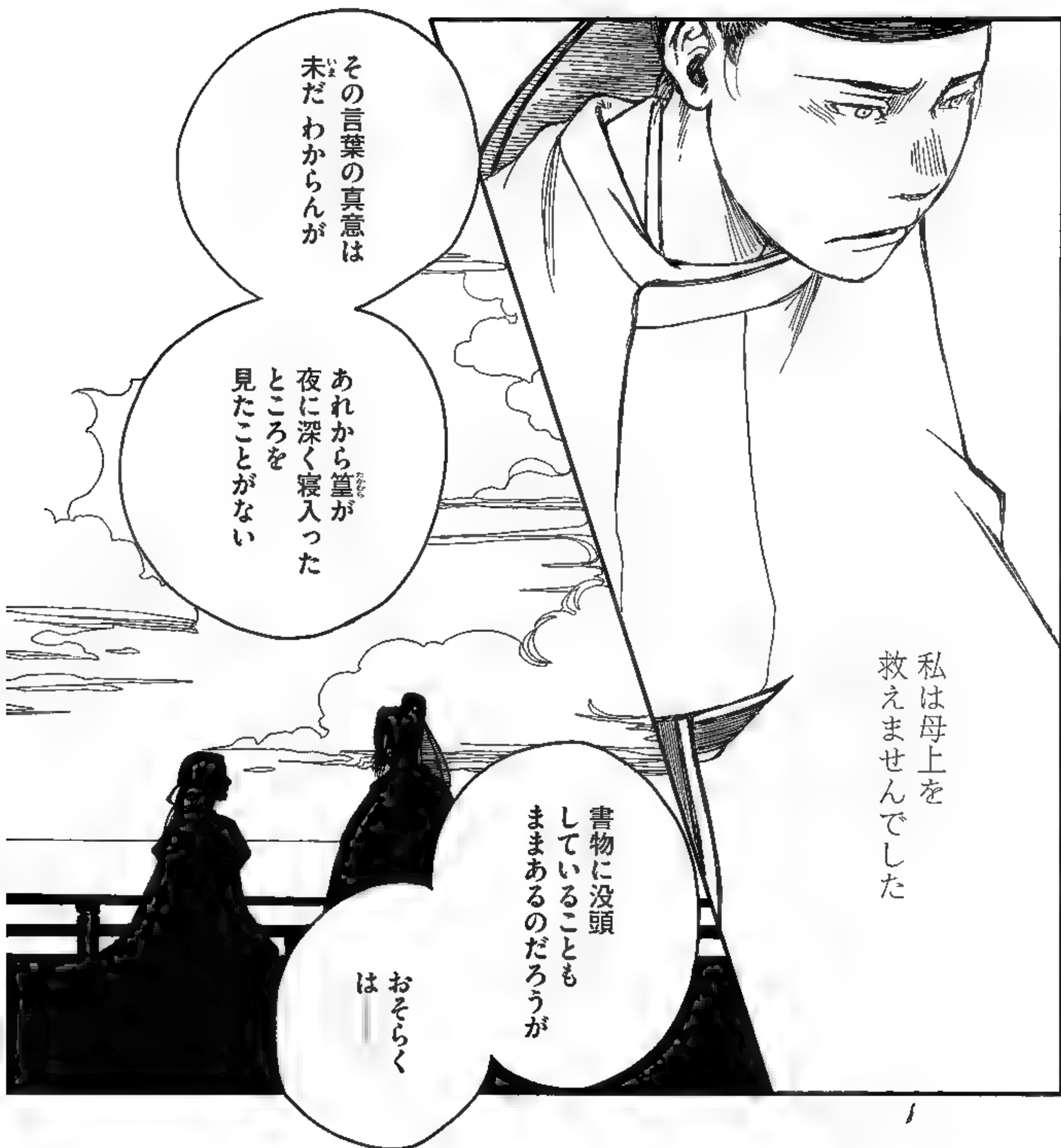
君こそ

また根を詰めているだろう

母が死んだのは
己のせいだと
思っている

え

……ですが
義兄上の御母上は
病で亡くなったと…
うむ

20

だが 母を
亡くしたとき

父上

私は母上を救えませんでした
その言葉の真意は未だ わからんが
あれから篁が夜に深く寝入ったところを見たことがない
書物に没頭していることもままあるのだろうが
おそらくは──

実をつけたな

あのときの

ぱしっ

木々は

長い長い
時をかけ
[illegible]られた命

大きな体の
隅々にまで
ゆきわたる

枝々を巡り

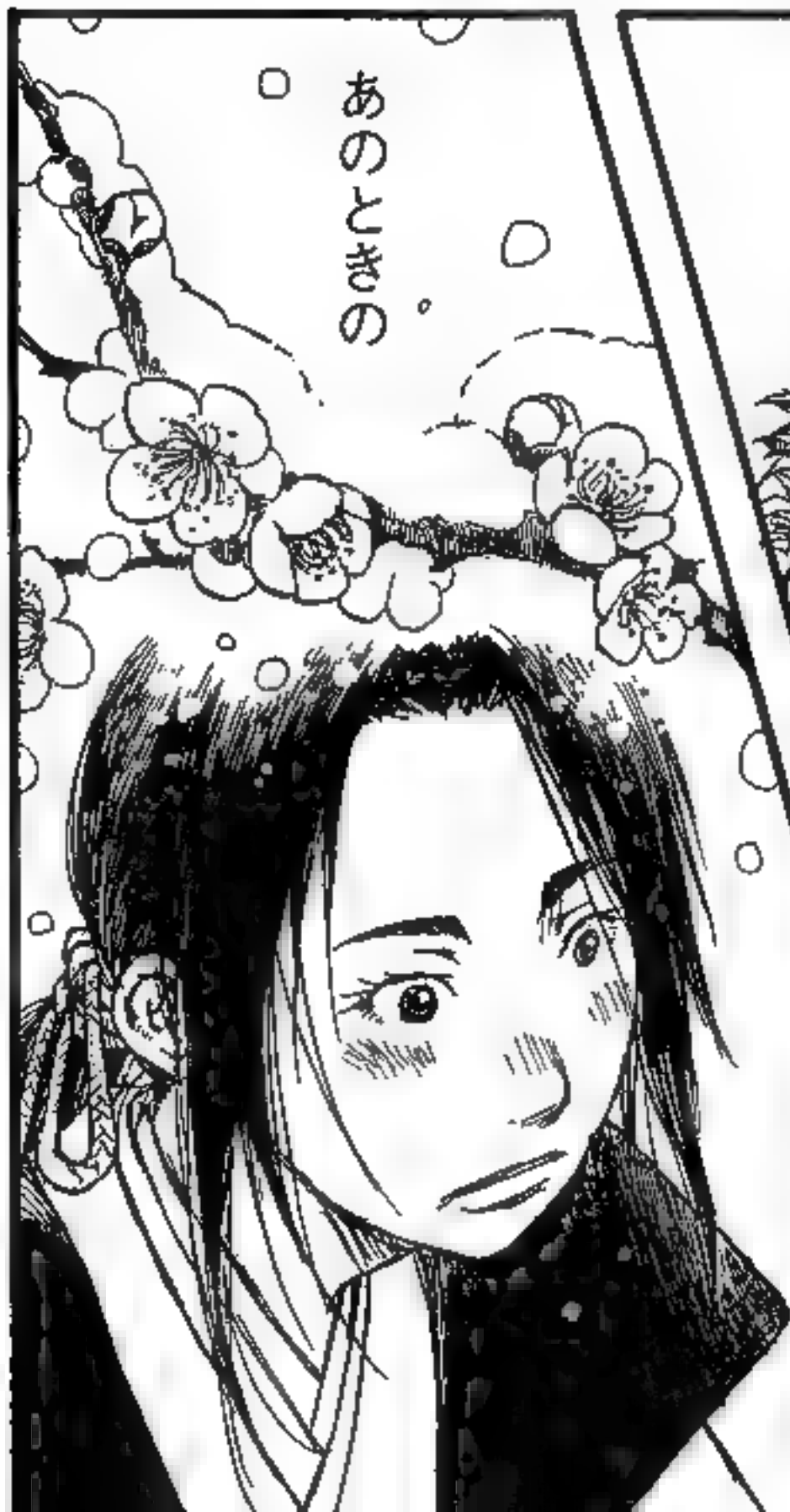
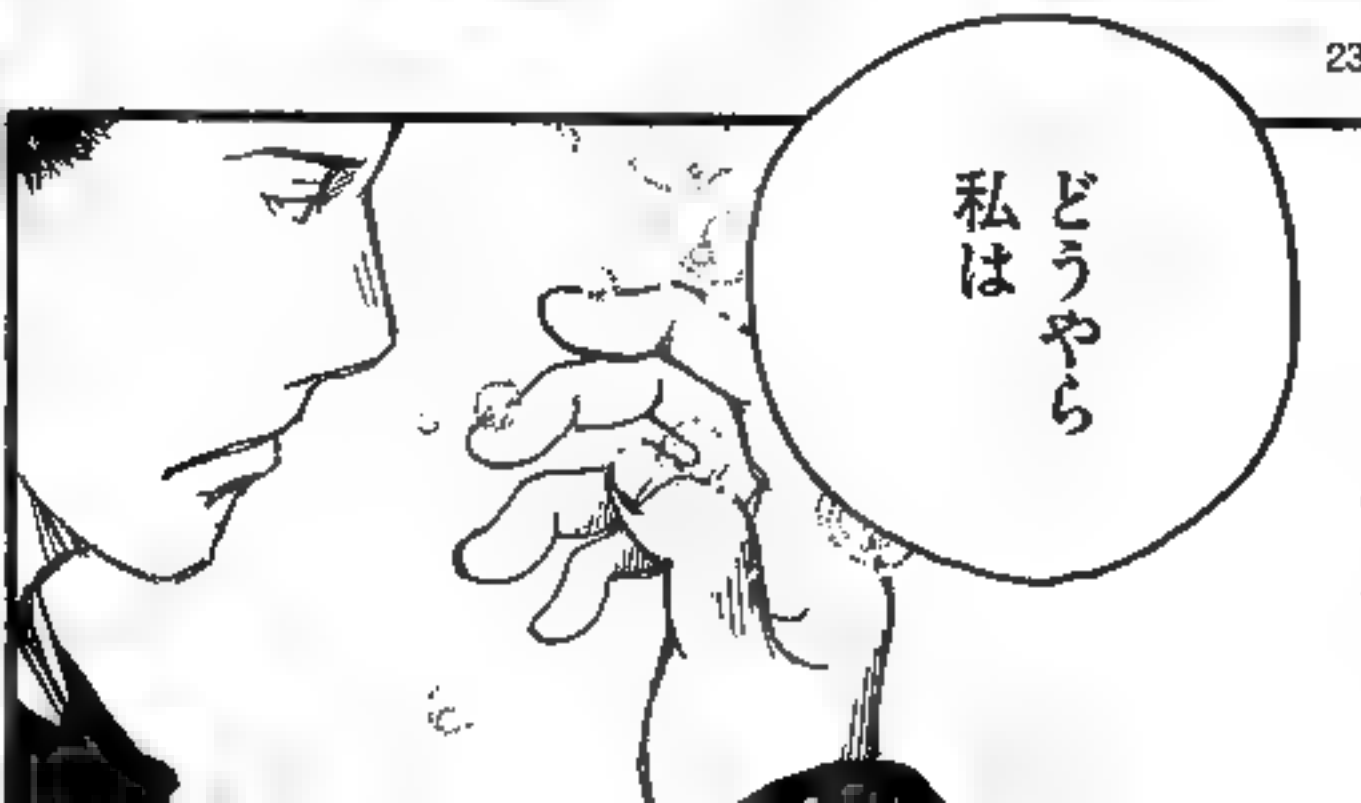
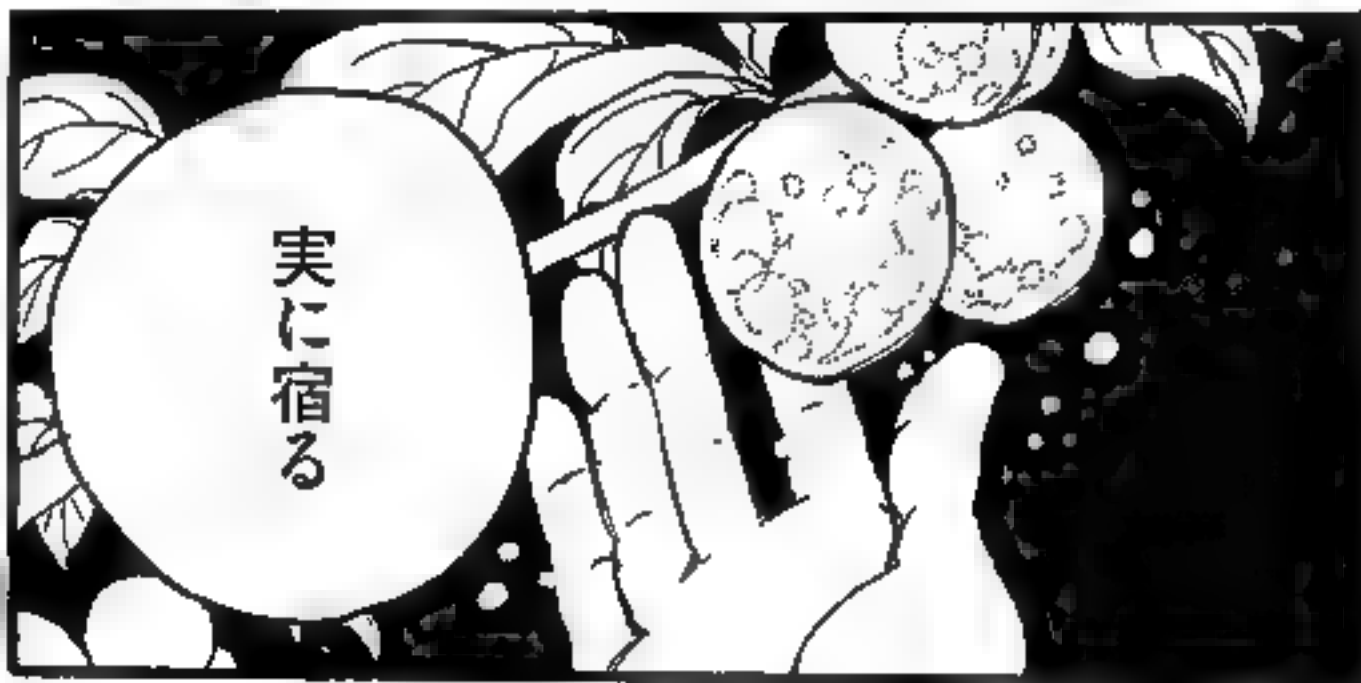
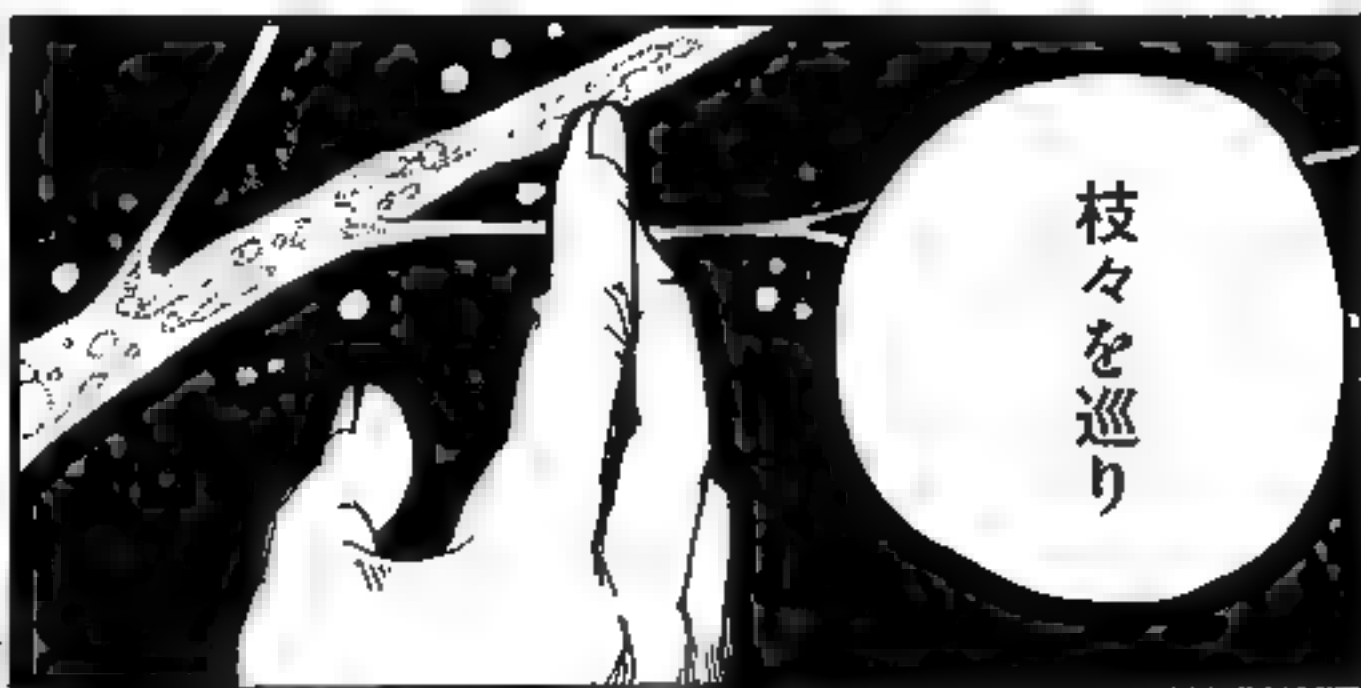
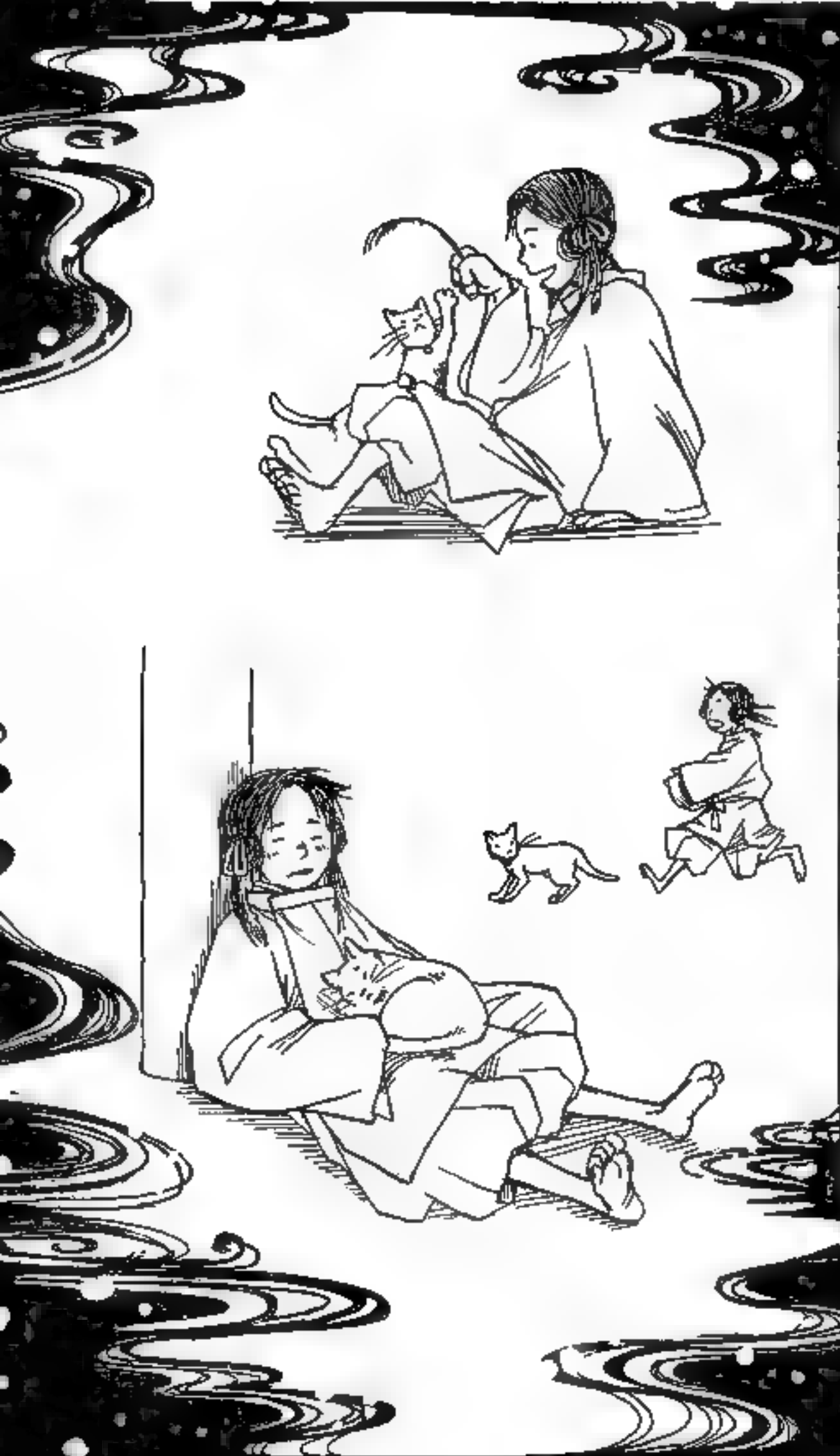
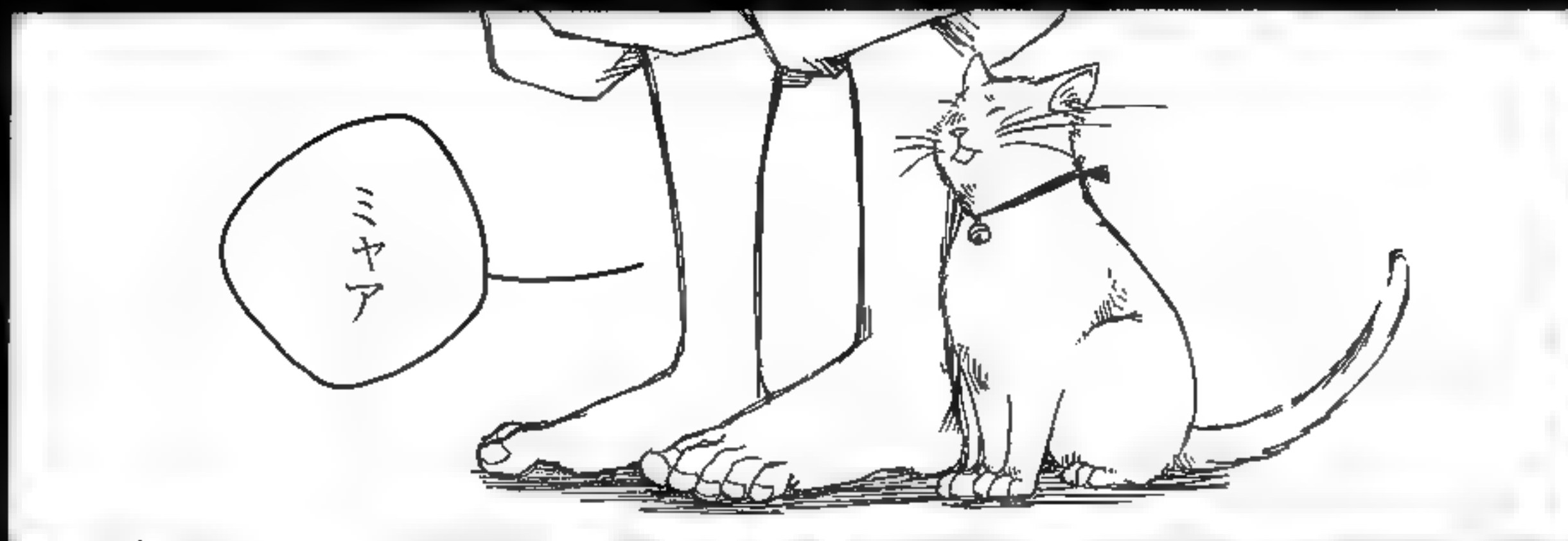
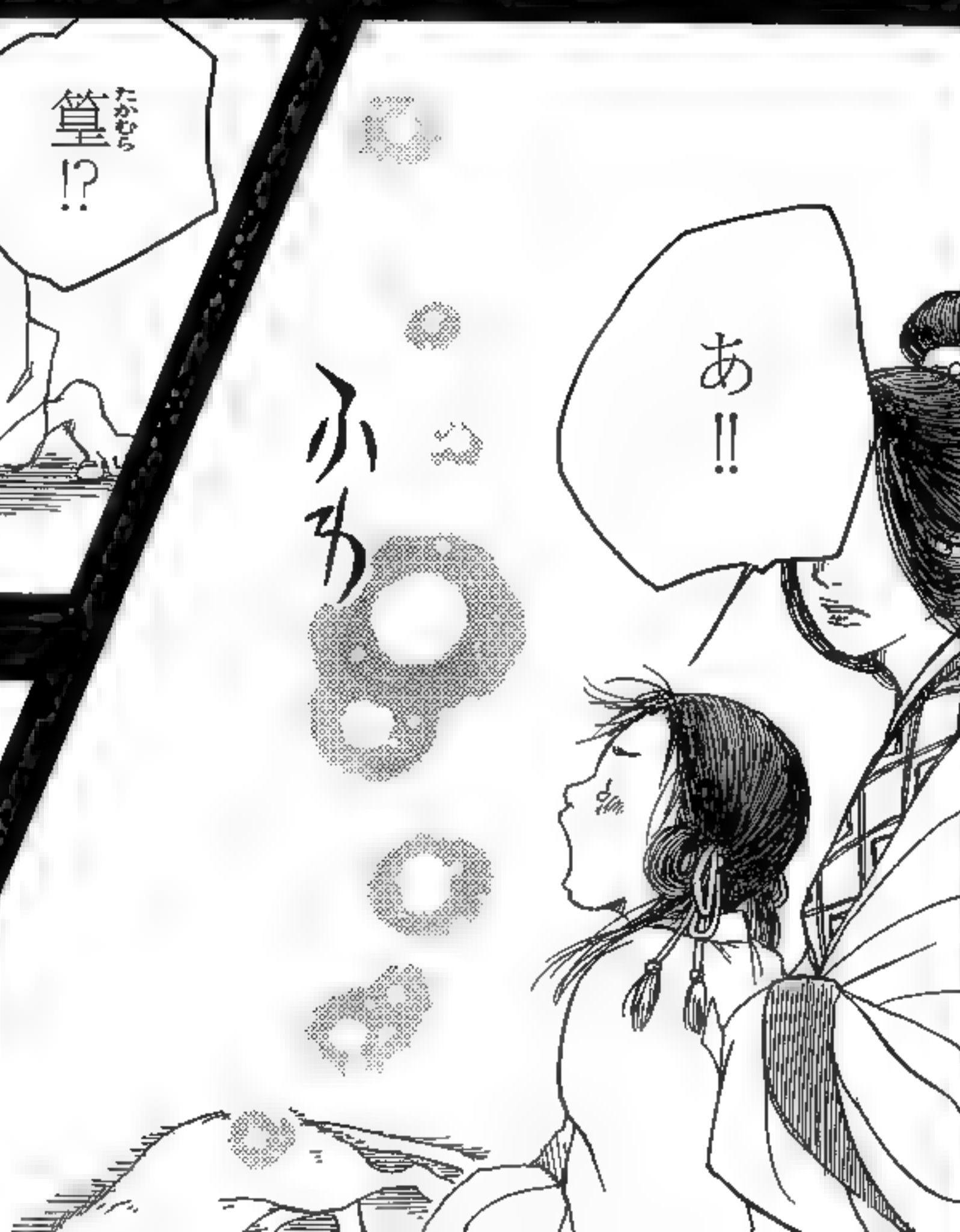
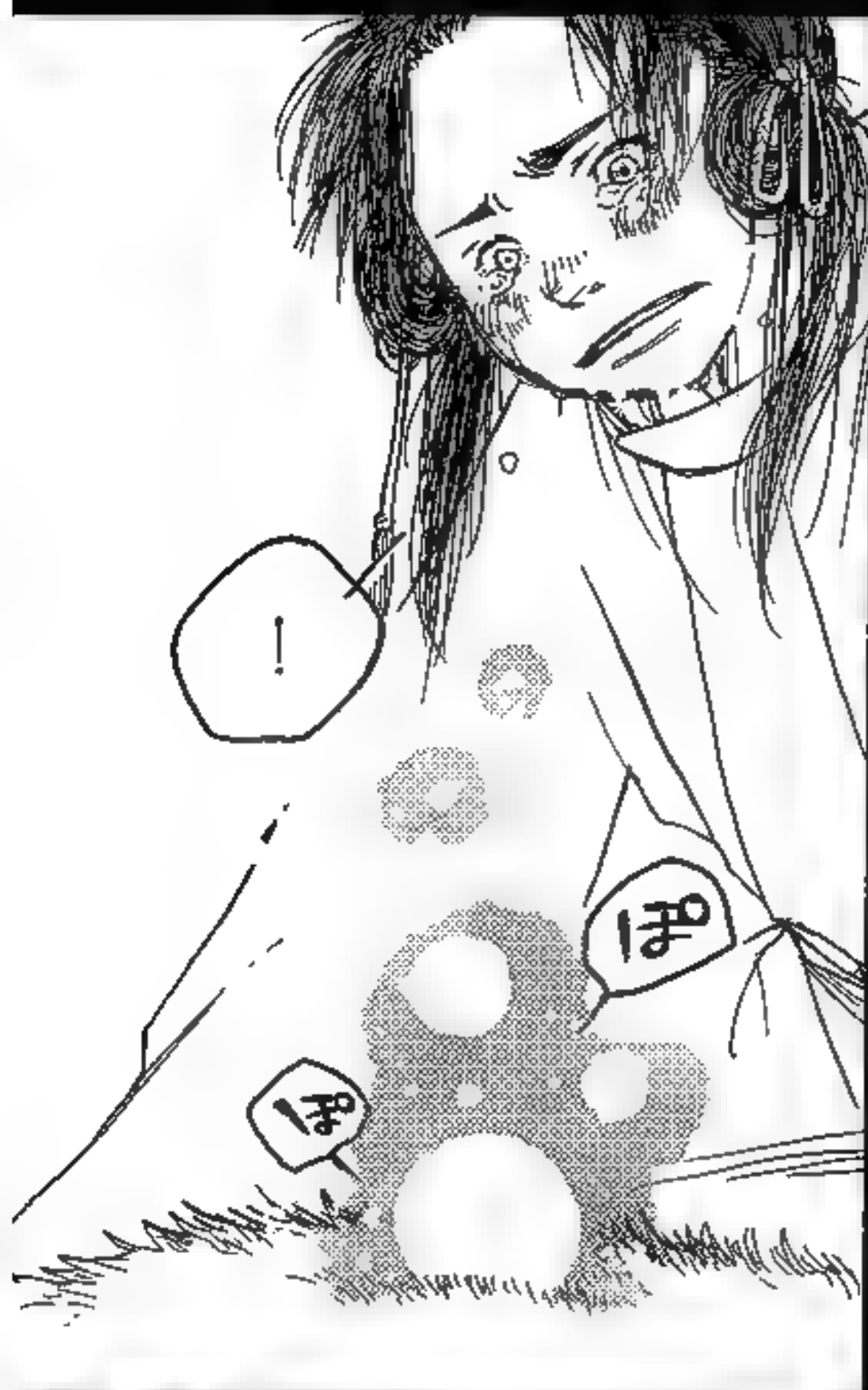
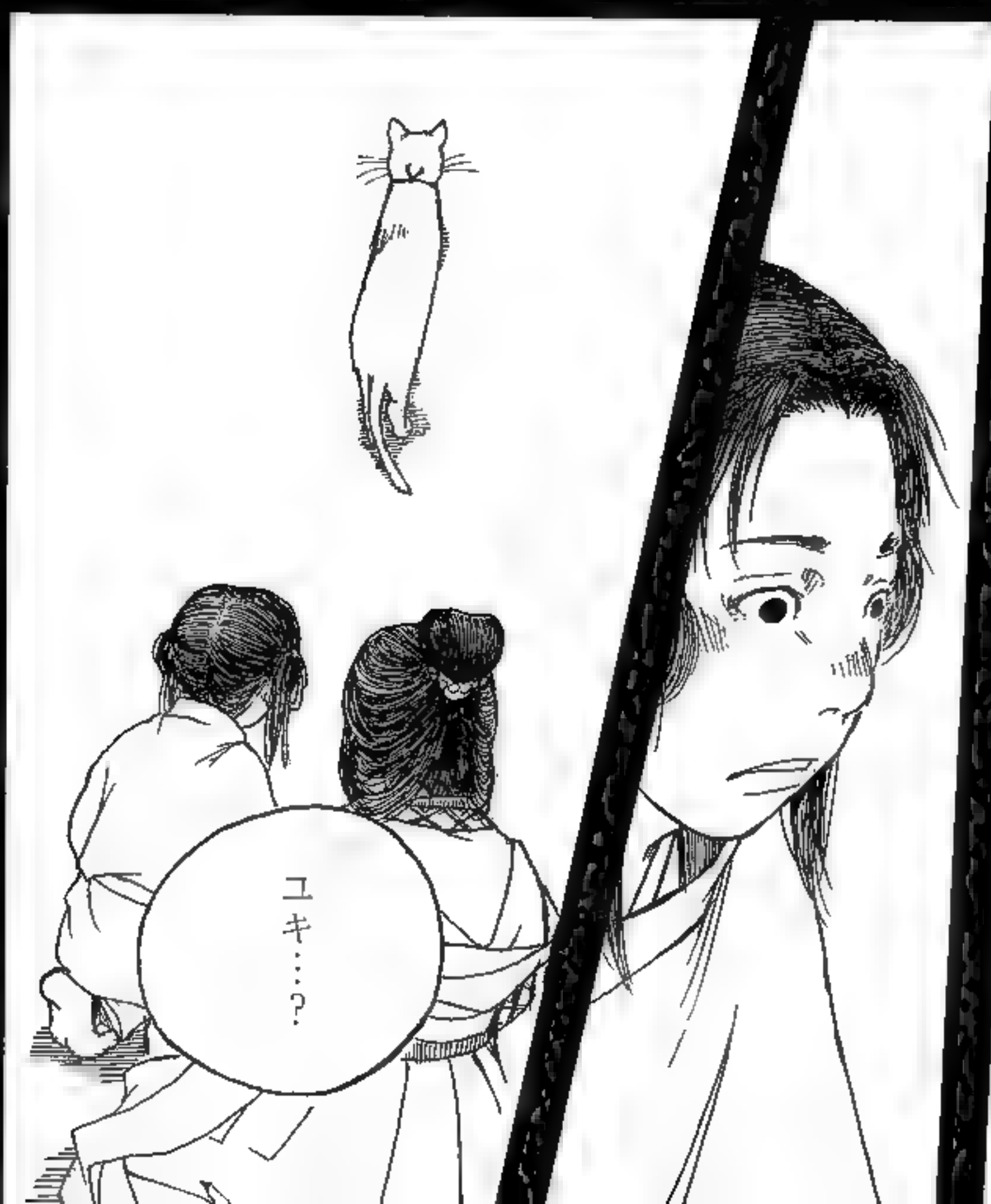
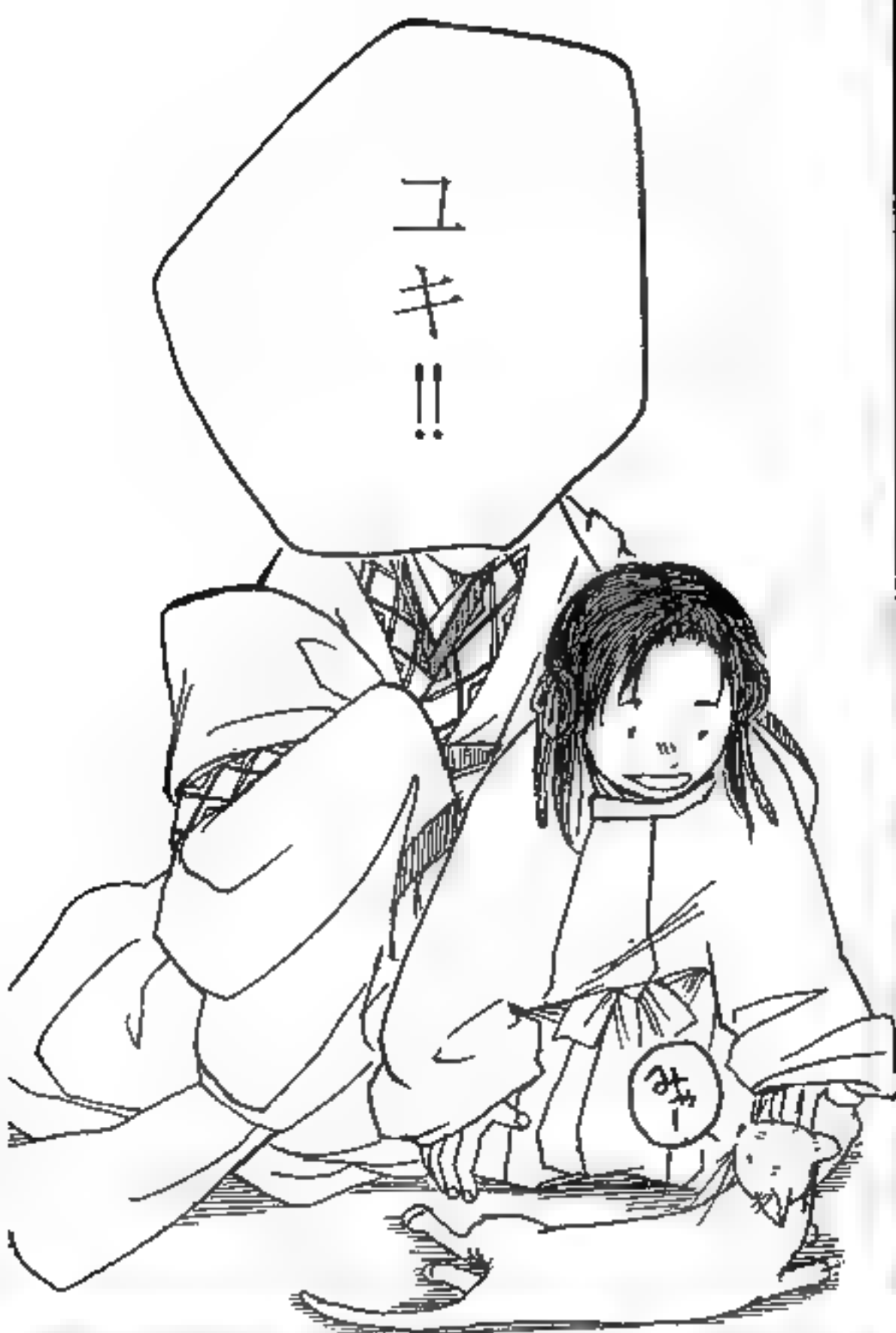
実に宿る

人より
ものがよく
視えるらしい

どうやら
私は

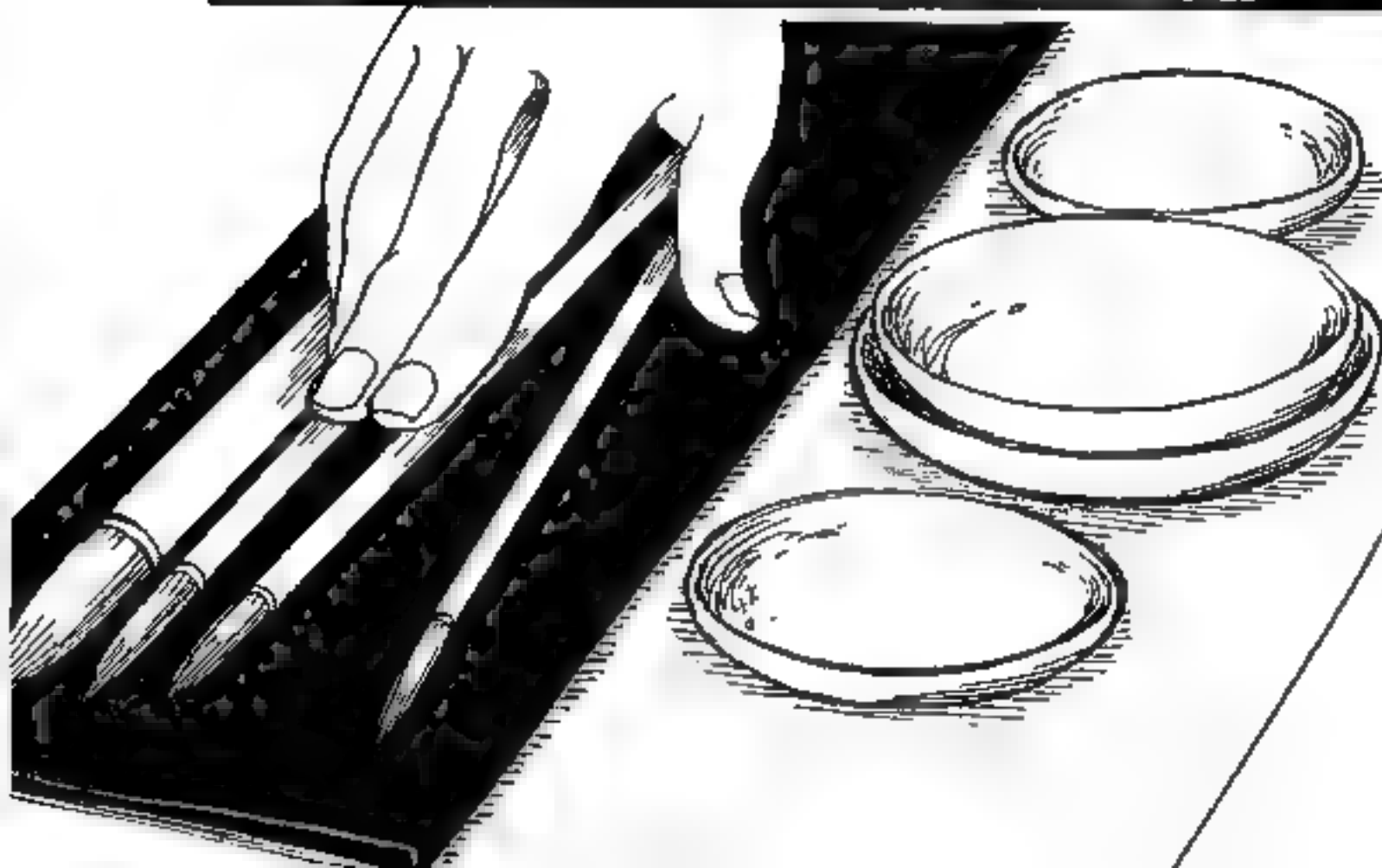
ミヤア
ふふ
あら
ずいぶんと
気に入られて
ニャー
母上!
ユキが!

篁と共にあって
1キも幸せ
だったはず
手厚く弔って
やりましょう
!
ぽ
ぽ
篁!?
ガばっ
あ!!
ふわ
すう…

ぴく
ユキ!!
みゃー
ユキ…?
フィッ

記憶の中から
私は消える
身体から抜けた
光を戻せば
命はつなげるが
大切な者を
救えても
共に重ねた時は
永遠に
失われるんだ

それでも
私は

その目が見る
世界に救われたのです

私の目に映るものは
間違っていないのだと

今度は私が
義兄上に伝える番

都は流行病が広がっているとか

鳥辺野も死体で溢れているようですな

どうりでこのところ落ち着かないのだな……

あの夢もよく見る

おお そういえば篁殿 貴殿の噂を耳にしましたよ

…

夜は冥府に仕えておられるとか何とか

閻魔大王に頼んで病で死んだ者達を生き返らせてはいかがか
はは それは名案
ああ そうですね
皆様の一挙一動もしっかり閻魔様にご報告せねば
すすすすすす
ふん
篁(たかむら)!!
おや 父上が息せき切って珍しい
比古(ひこ)が倒れた!!

比古!!
!!
ホウ

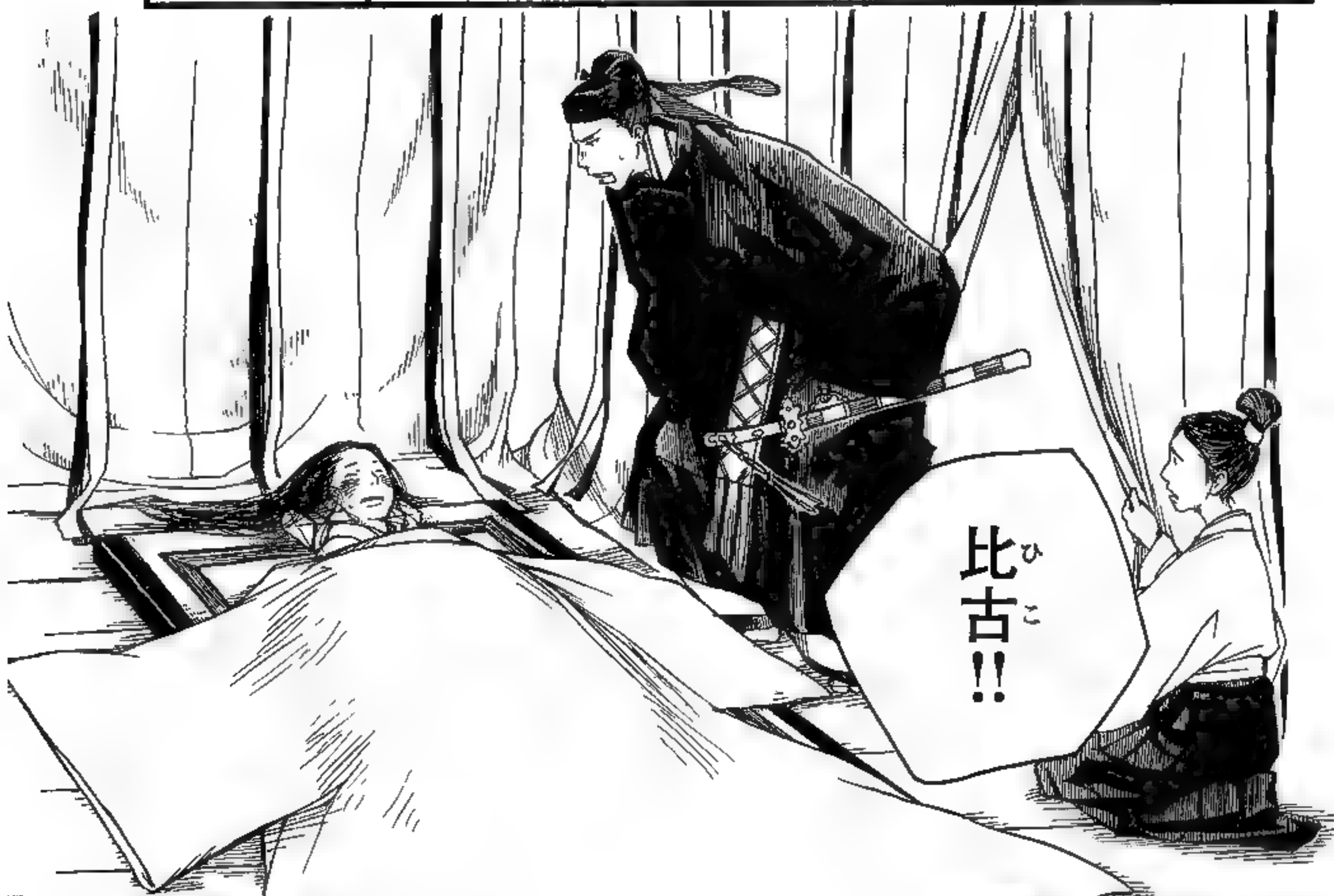
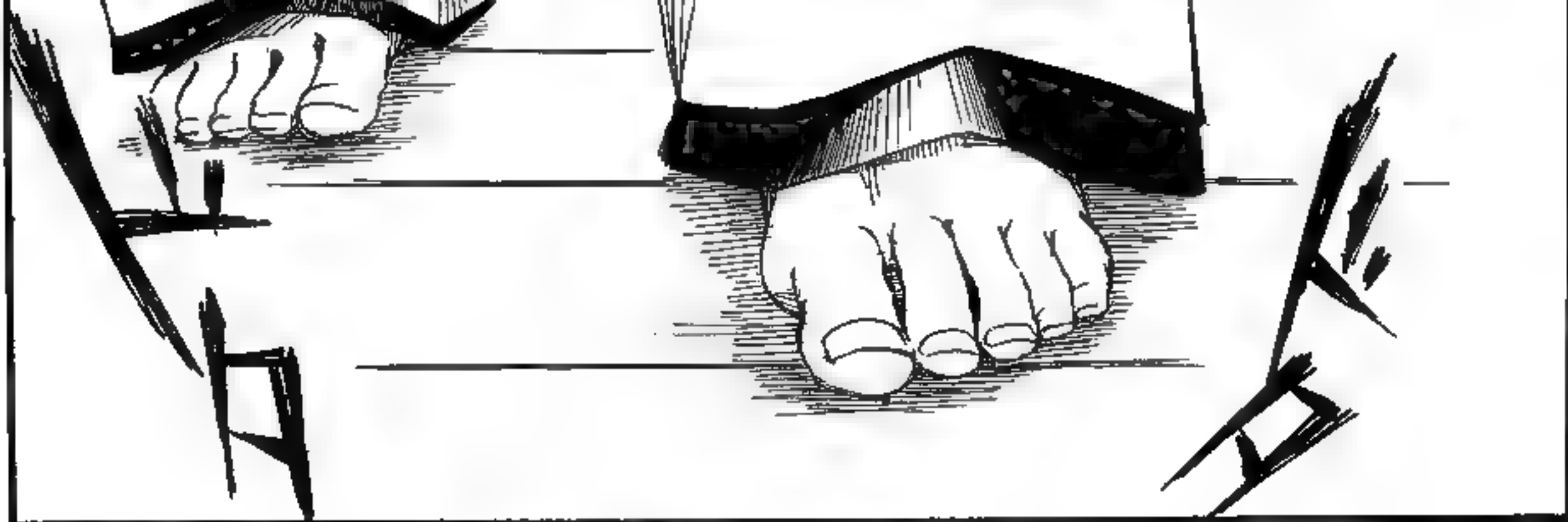
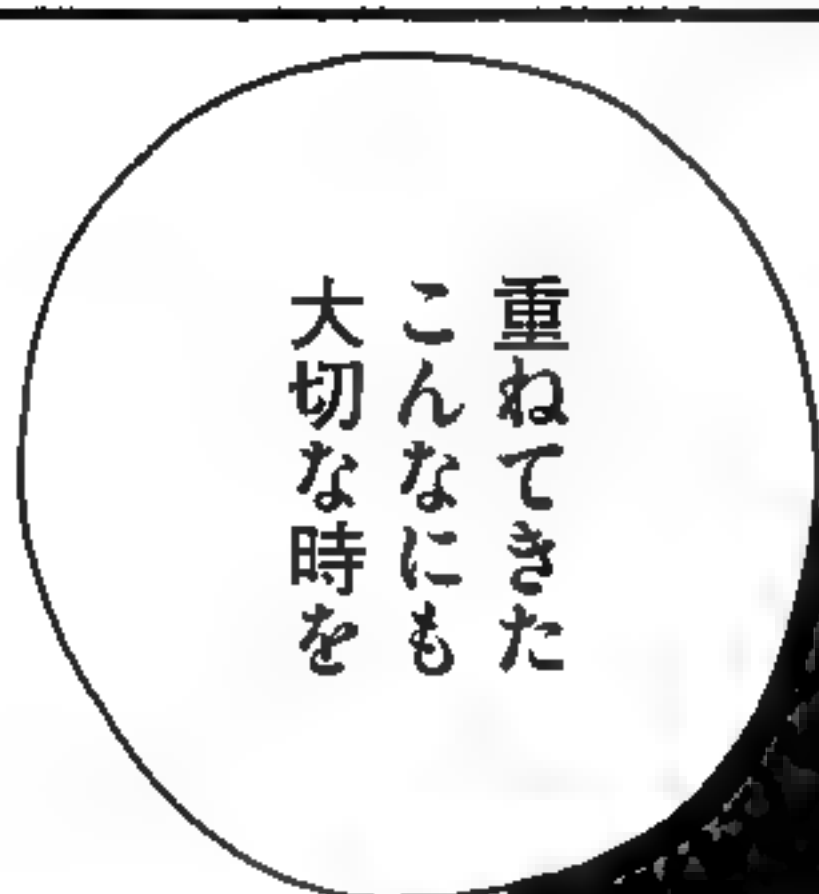
ぱしっ

32

いけません
仮に命を
つないでも

義兄上（あにうえ）の
ことを
忘れてしまう

およそ姫らしからぬ私を
真っすぐに見て
くださった方なのに

ぎゅ

大切な者も
救えずに
何の力か

義兄上の御母上も
記憶を失ってまで
生きることは
望まれなかったの
ですね
重ねてきた
こんなにも
大切な時を

失うわけには
いきません

タッ

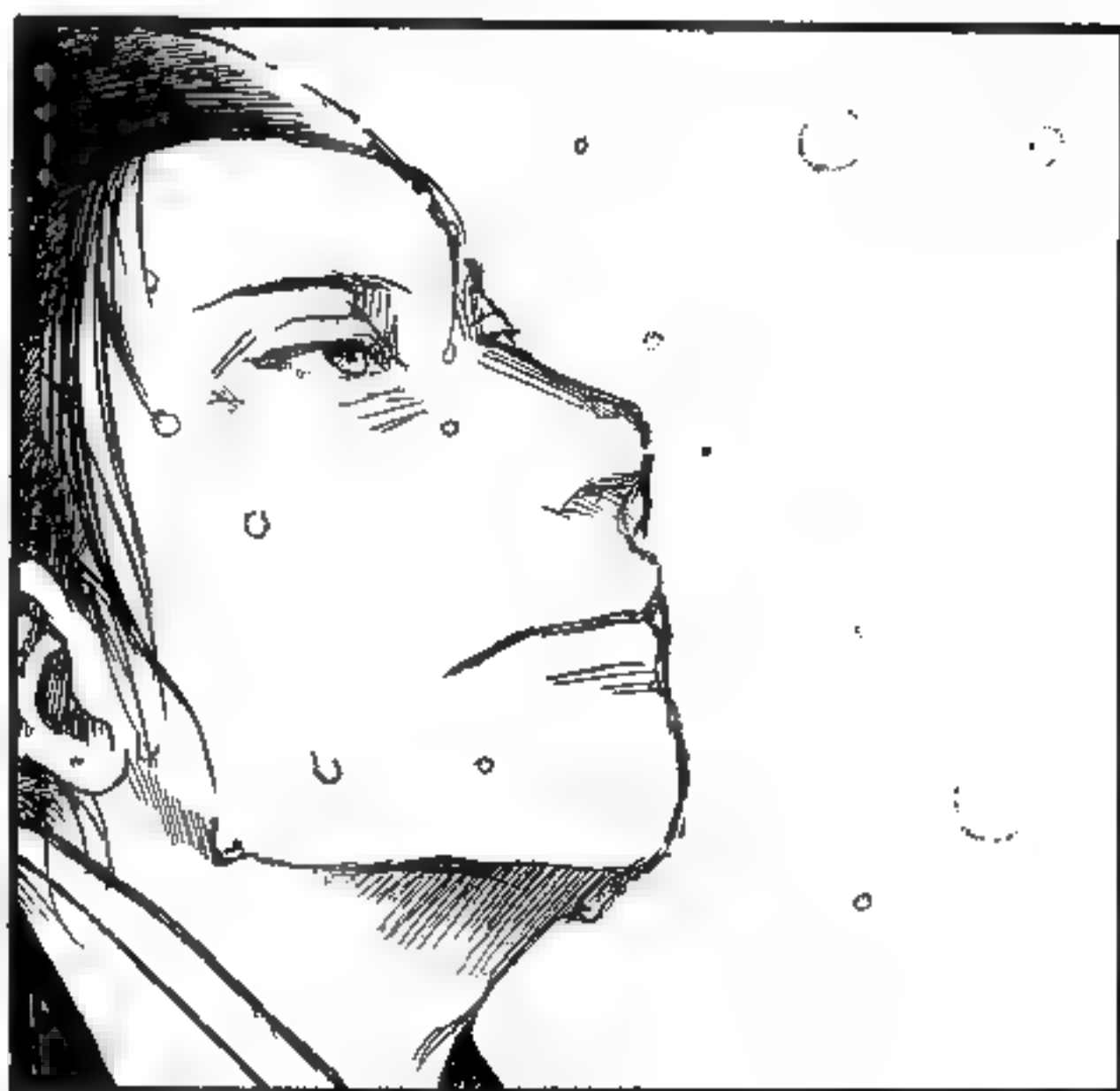
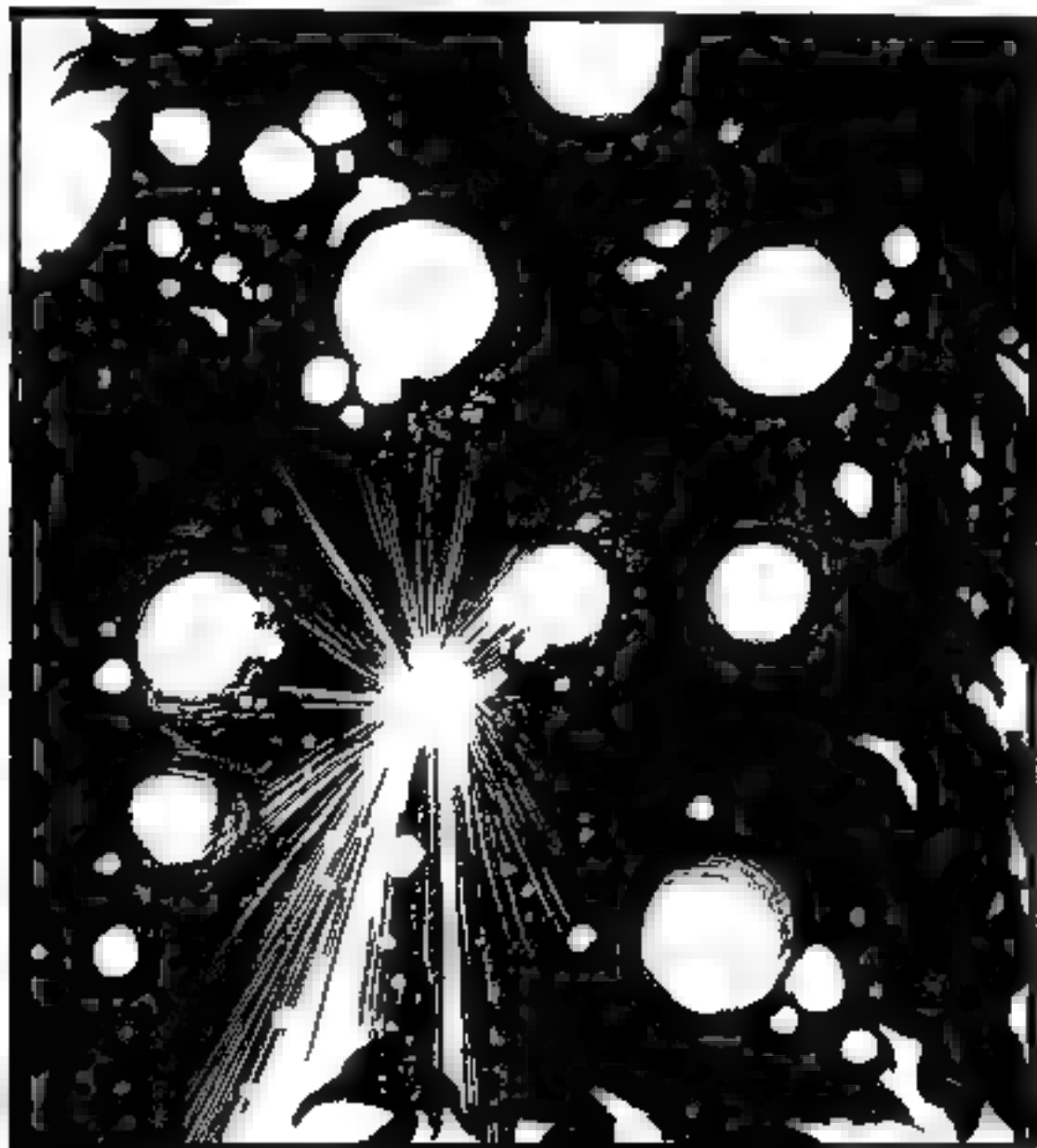
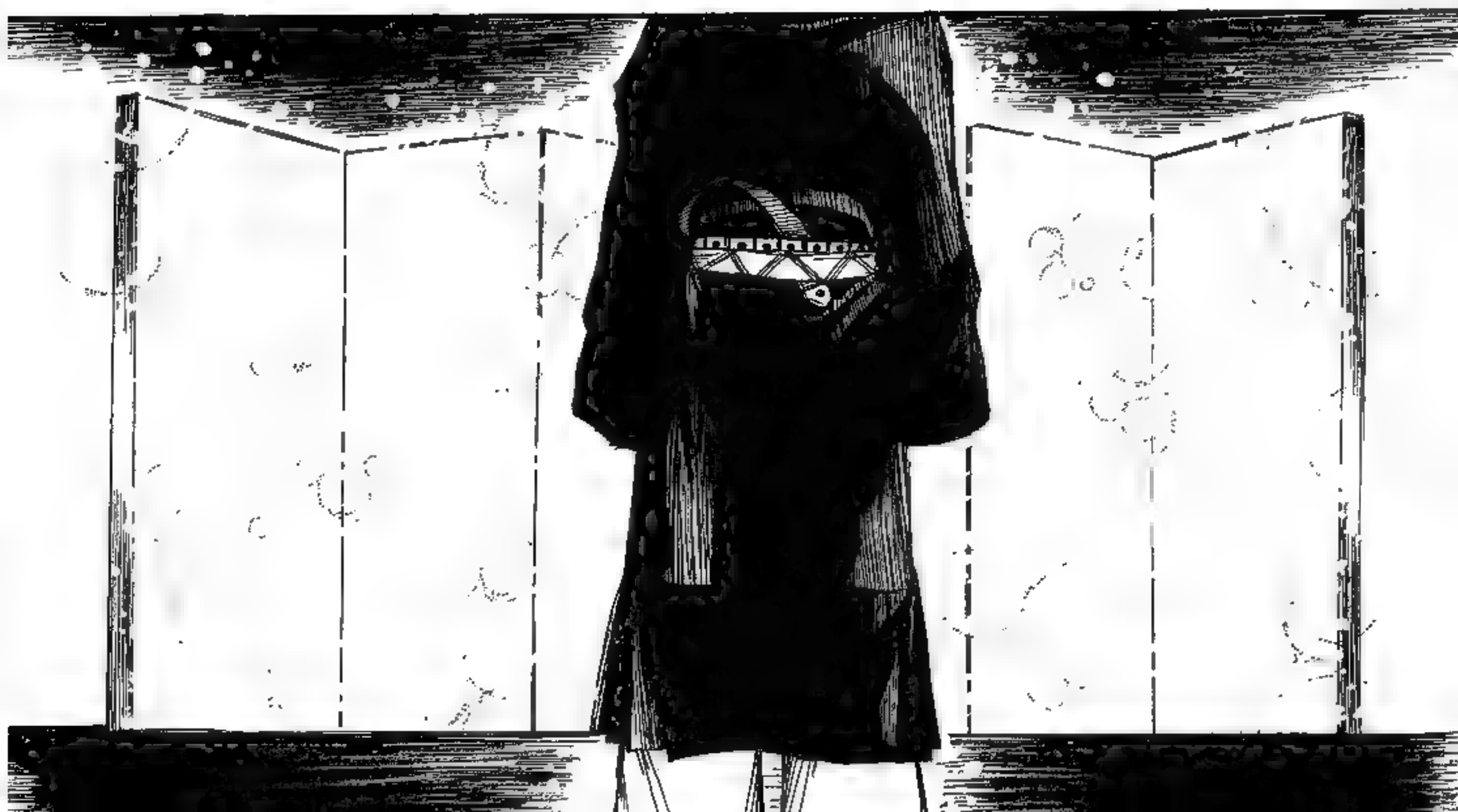
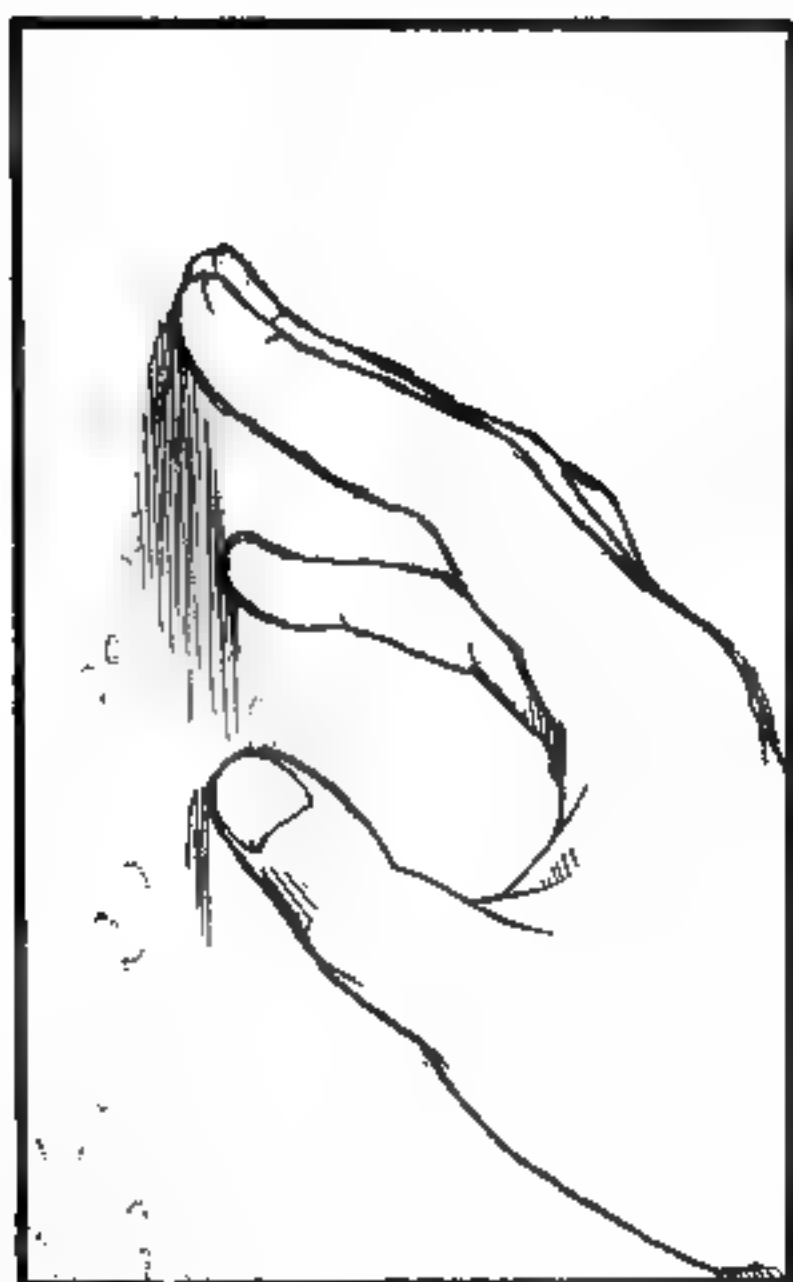
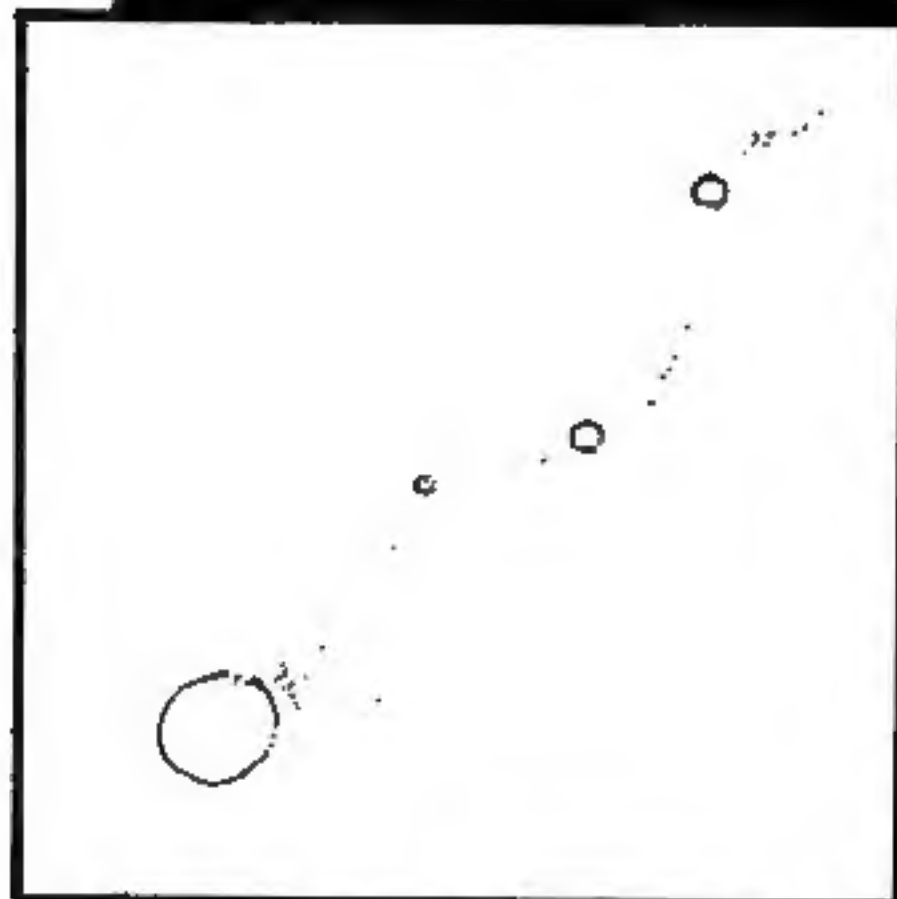
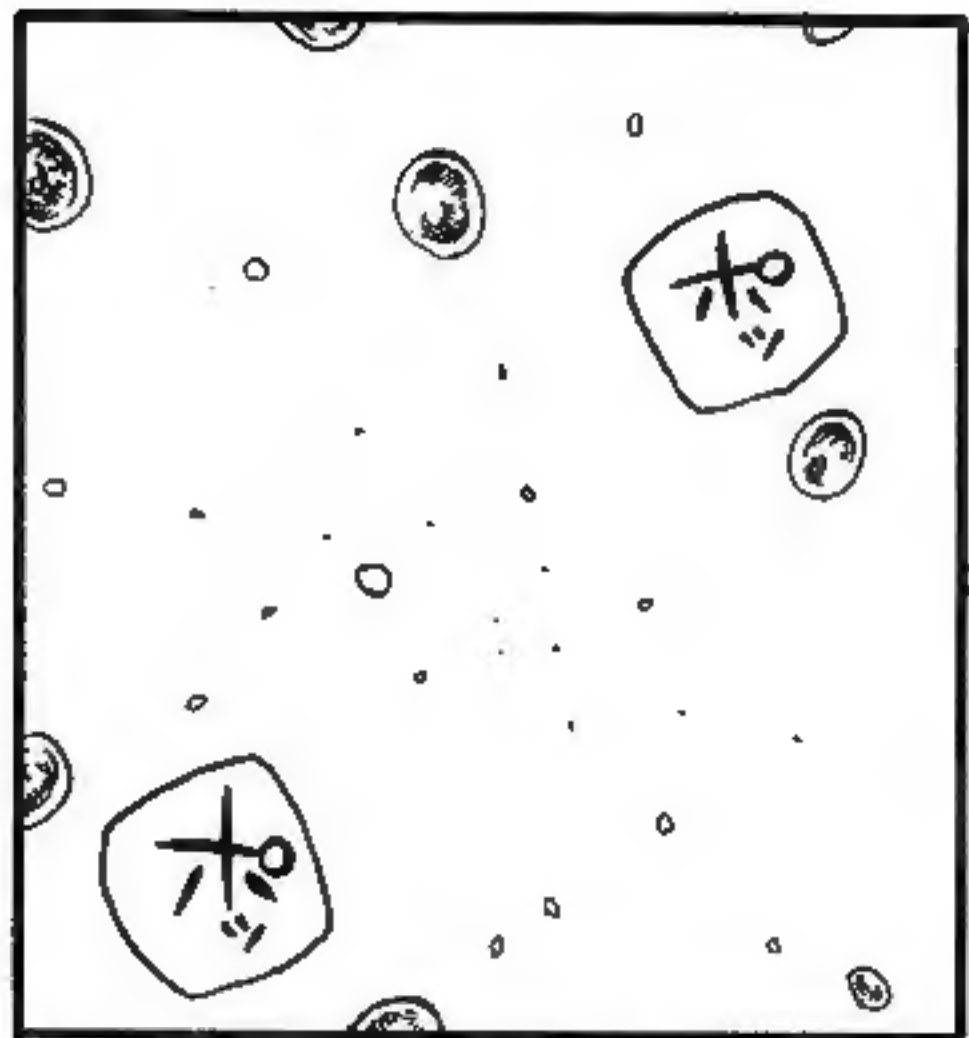
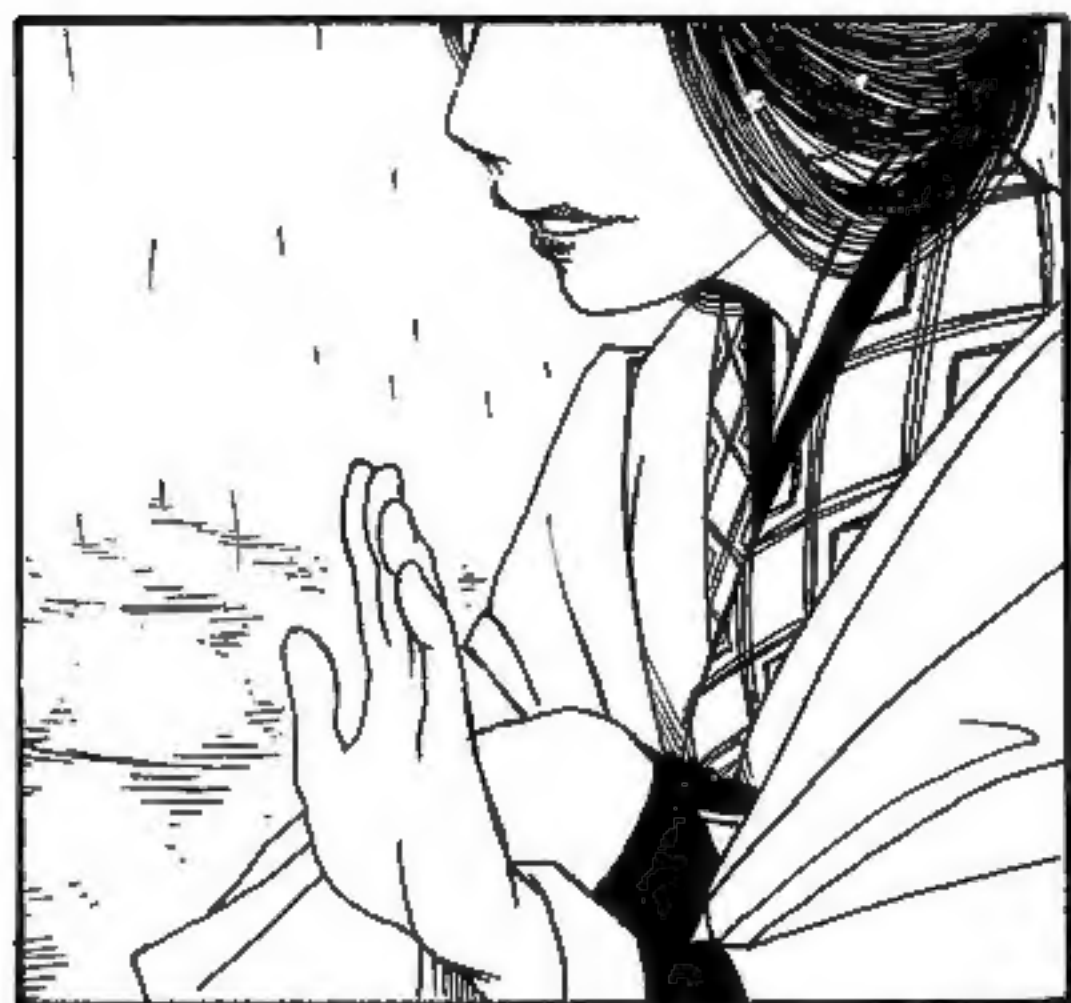
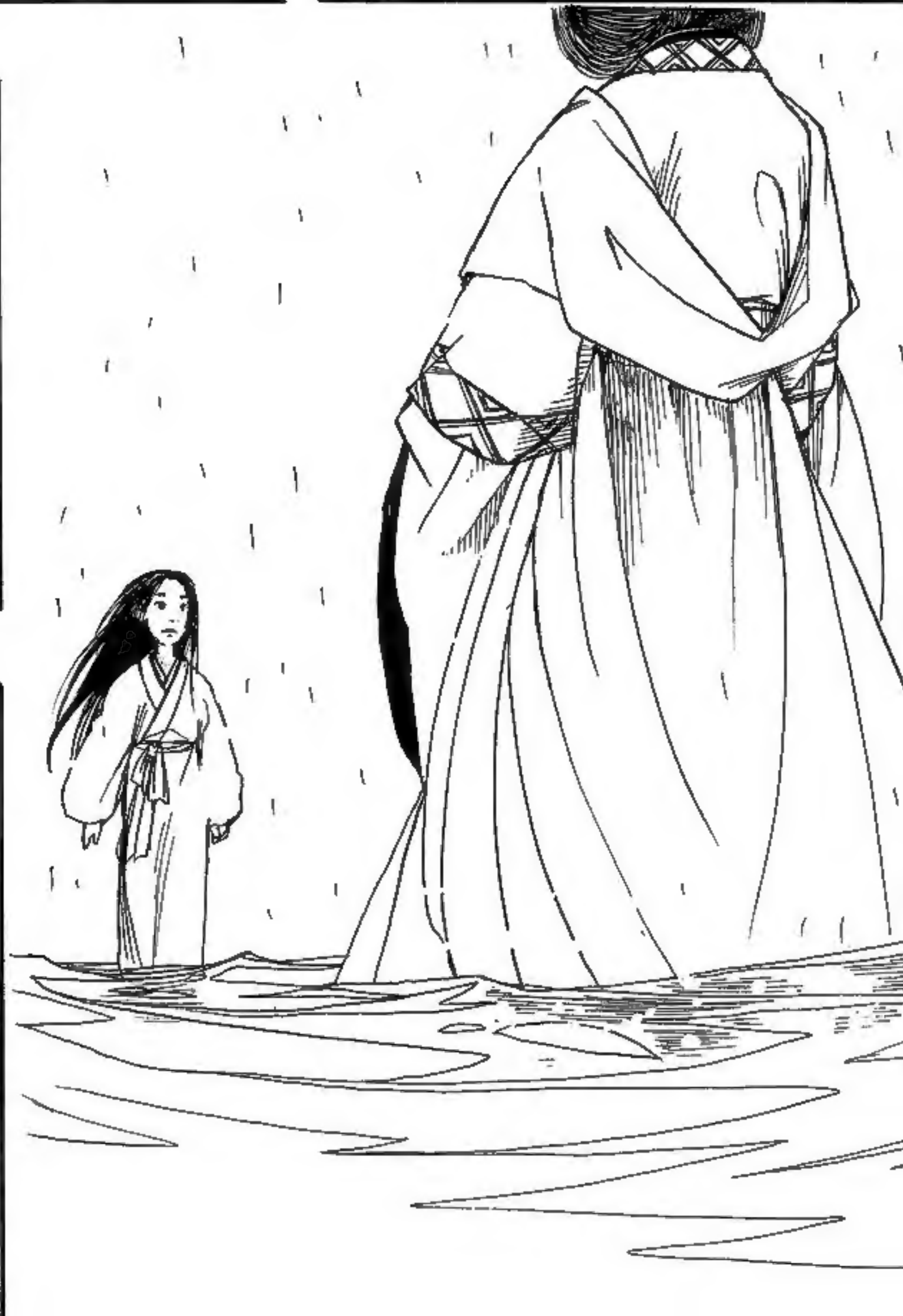
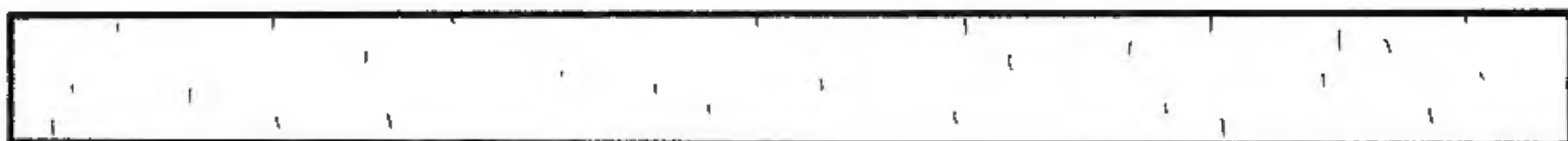
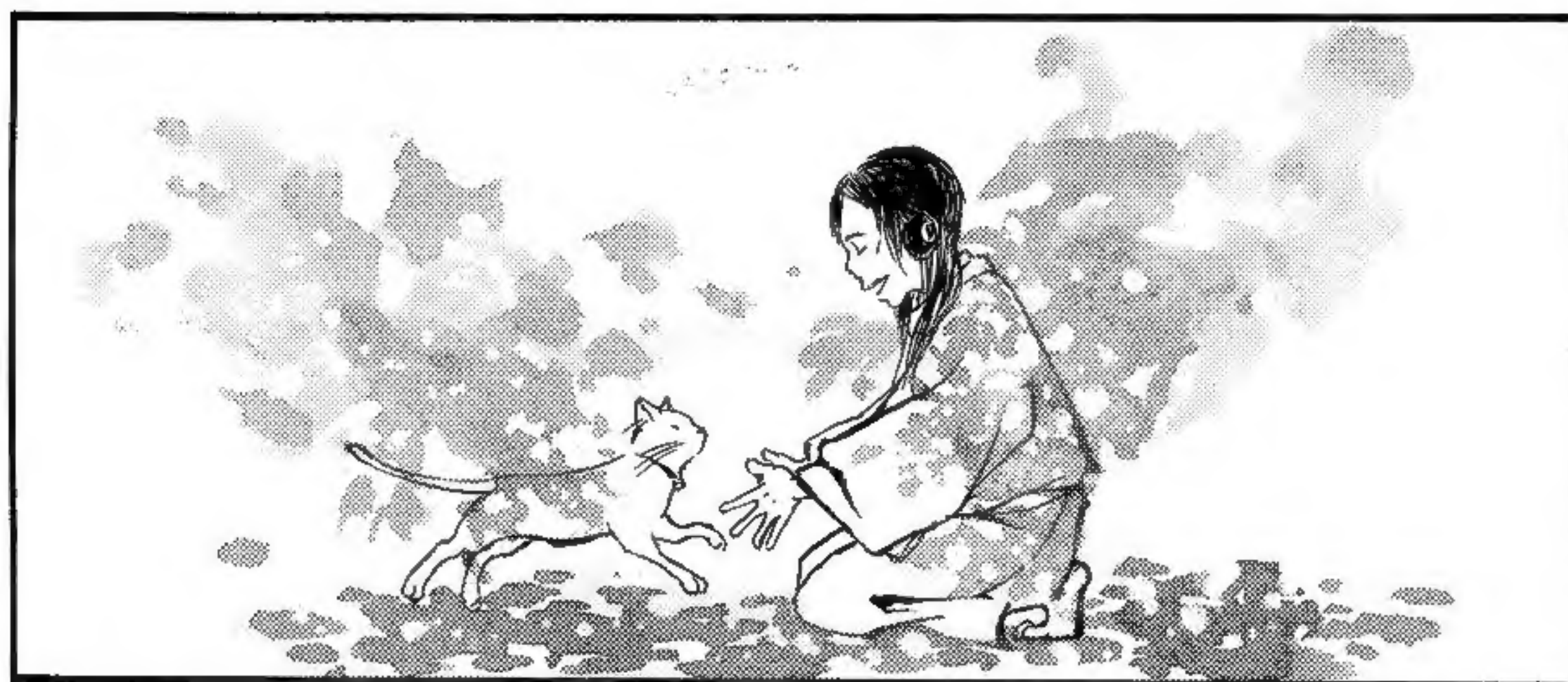
ざあぁぁ

〝泣く涙
雨と降らなむ渡り川
水まさりなば
帰りくるがに〟

義兄上
どんな闇にも
夜明けは
訪れます

ポツ
ポツ
サアアア

篁様(たかむら)!!

比古(ひこ)様が!!

亡母への想いは今、かけがえのない光へと還った。

あめつちのうた ～終～

この作品の感想など
お待ちしております。